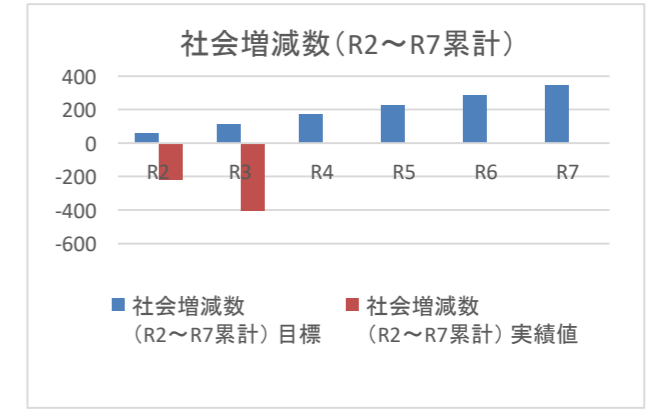
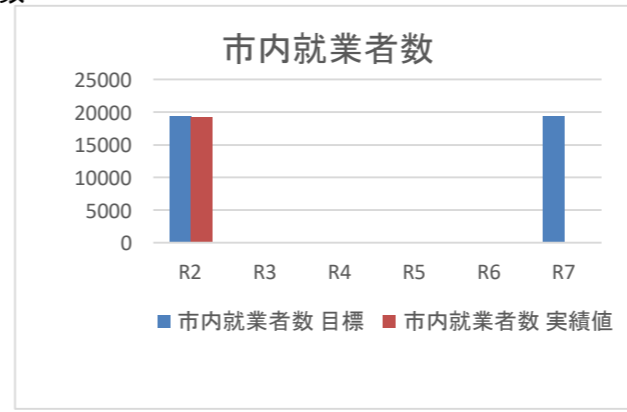
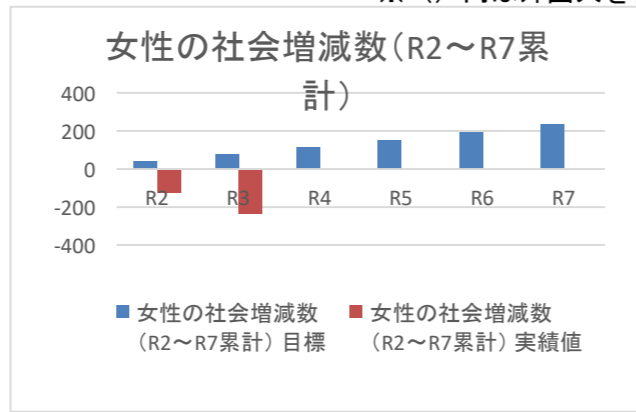
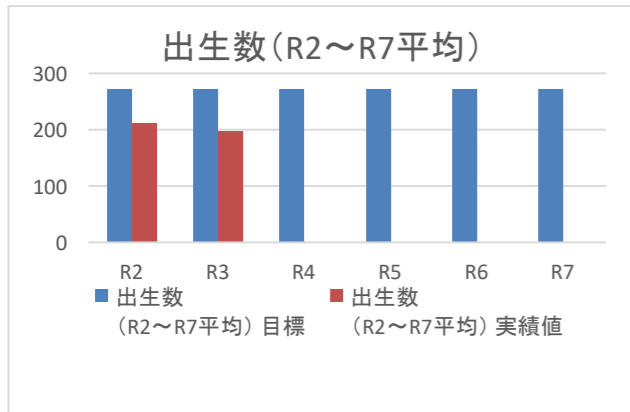


第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和3年度総括表

基本目標	指標名	単位	指標数値							主な事業	備考		
			現状値	R2	R3	R4	R5	R6	R7				
1. 結婚・出産・子育てを支援し、女性の定着を図る	出生数 (R2～R7平均)	人	目標	241	272	272	272	272	272	272	8事業（結婚活動支援事業・不妊治療助成事業ほか）	出生数：出生届の数（4月～3月） 女性の社会増減数：総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」	
			実績値	(H30)	211	197							
			(参考：単年数値)	211	183								
2. 産業振興により、魅力ある雇用の場を創出する	女性の社会増減数 (R2～R7累計)	人	目標	△101	38	76	114	152	190	232	6事業（企業立地雇用促進事業ほか）	国勢調査	
			実績値	(△45)	△125(△125)	△234(△248)							
3. 住環境を向上し、市民の定住意識を高める	市内就業者数	人	目標	19,349	19,300					19,300	7事業（公営住宅整備事業ほか）	総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」	
			実績値	(H27)	19,181								
4. 多種多様で魅力的な地域を形成する	社会増減数 (R2～R7累計)	人	目標	△171	57	114	171	228	285	344	3事業（小さな拠点づくり事業ほか）		
			実績値	(△79)	△218(△212)	△404(△427)							
	安来市への愛着度	%	目標	61.6						70.0			
			実績値	(H30)									

※（）内は外国人を含んだ数



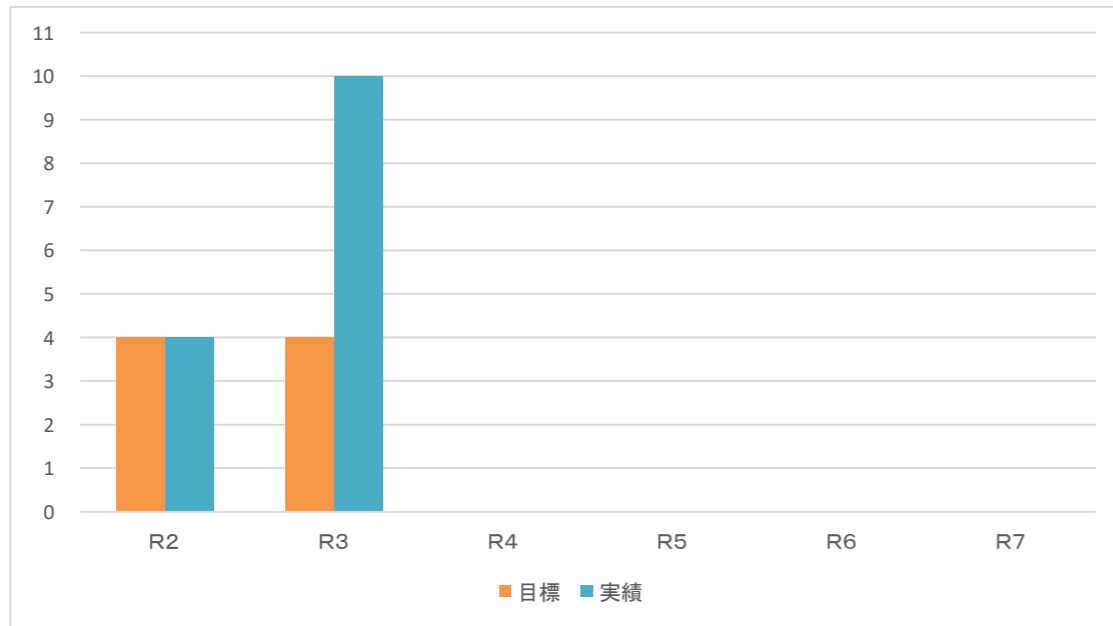
基本目標	内部評価		外部評価	
	評価	分析・方向性	評価	検証
1. 結婚・出産・子育てを支援し、女性の定着を図る	C	出生数及び女性の社会増減数とも目標を下回った結果となっている。女性の社会増減数を単年数値で比較すると、令和2年の△125人に対し、令和3年度は△109人であった。安来市は鉄鋼業を中心とした製造業が多く、女性が働きやすい職種が少ない傾向があり、基本目標2の推進と併せて女性にとって魅力のある雇用の場を確保する事業の展開に併せ、市内各企業に女性の社会進出を促す啓発活動にも取り組む必要がある。	B	AやB評価だった各事業が、基本目標の指標に直結していないので、事業の見直しが必要ではないか。全国的に少子化が進んでいる中、指標自体の見直しも必要ではないか。基本目標の指標からは大きく下回っているが、各事業の評価をした場合、CよりもBを妥当とする。
2. 産業振興により、魅力ある雇用の場を創出する	C	令和2年の国勢調査による市内就業者数が令和4年5月で公表され、5年前の平成27年の国勢調査時と比較して168人の減であった。ソフト産業のサテライトオフィスなど、コロナ禍をきっかけに発生した新しい取り組みもあり、アフターコロナでも雇用の増大が見込める企業の誘致活動を強化する必要がある。	B	各事業の評価がAは1個、Bが4個、Cが1個であり、全体的評価でいえばBが妥当とする。
3. 住環境を向上し、市民の定住意識を高める	B	社会増減数は大幅な減となっており、単年数値で比較すると、令和2年の△218人に対し、令和3年度は△186人であった。UIターンで定住を促す事業にも限界があるので、流出人口を減少させる事業の推進が必要である。即効性は見込めないが、「高校の魅力化」を推進し、併せてふるさと教育を充実させ、「地域の魅力化」と「地域の将来を担う人材の育成」につなげ、人口の流出を防ぎたい。	B	各事業の評価がAは1個、Bが5個、Cが1個であり、全体的評価でいえばBが妥当とする。
4. 多種多様で魅力的な地域を形成する	B	基本目標を実現するために実施している事業の評価結果を踏まえ評価した。中山間地域では魅力的な地域を形成する事業を積極的に展開しているが、市街地での取り組みは不十分である。令和2年度より5年間安来市の比田地区が小さな拠点づくりのモデル地区の選定されるなど、中山間地域での積極的な取り組みが市街地にも浸透するよう情報発信が必要である。	B	アンケートの結果は外部評価者として非常に関心のあることなので、最終年度に限らず実施し、フィードバックすべきである。

評価基準 A：目標達成に向かって順調に進んでいる。 B：目標達成に向かってある程度進んでいる。 C：目標達成に向かってあまり進んでいない。 D：目標達成に向かって進んでいない。

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 やすぎ暮らし推進課

事業名	結婚活動支援事業									
基本目標	基本目標1 結婚・出産・子育てを支援し、女性の定着を図る									
施策	(1) 結婚しやすい環境づくり									
目的	結婚を望む男女の出会いから一連のプロセスに対する支援体制の強化を図り婚姻数を増加させる。									
手段(Plan)	市に結婚相談窓口を設置し、結婚全般に関する相談受付や「しまこ」の閲覧体制を構築し、「はぴこ」の活動支援や募集、情報発信を行う。									
詳細事業内容(Do)	成果説明書(下段:頁)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
		19P								
決算額	総事業費(千円)	1,010	1,148	0	0	0	0			
	財源内訳	国・県	811	940						
		地方債								
		その他								
	一般財源	199	208							
重要業績指標KPI	市が行う結婚活動支援事業による成婚数(単年)									
現状値	目標値		R2	R3	R4	R5	R6	R7	単位	
		目標	4	4					組	
2(H29)	4(R7)	実績	4	10					平均達成率	
		達成率	100.0%	250.0%					175.0%	

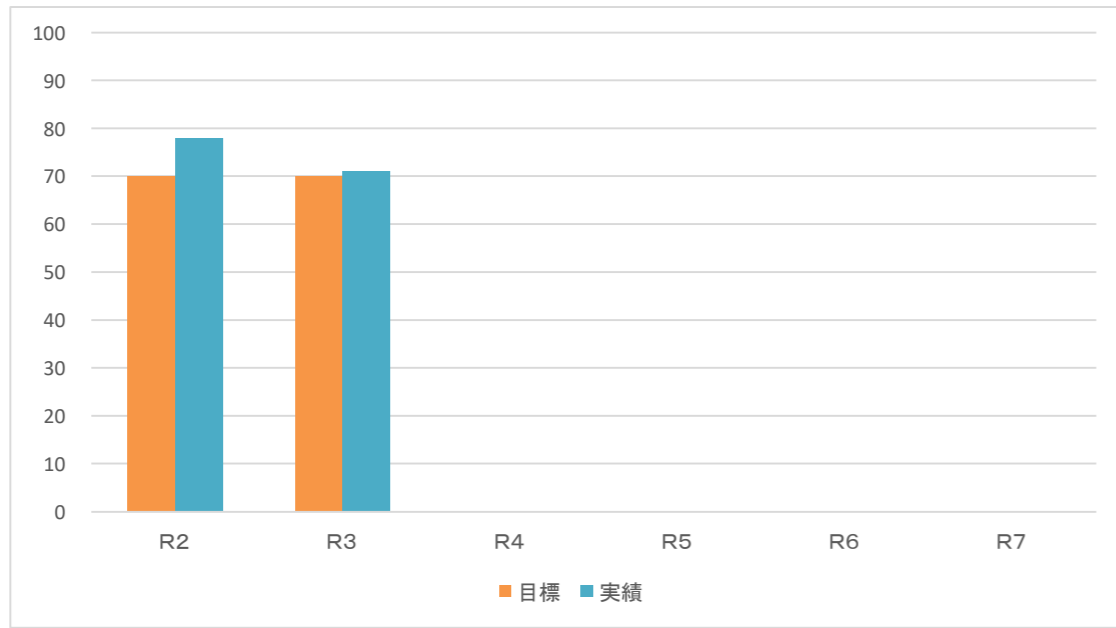


	内部評価 (Check)		外部評価 (Check)		改善策等(Action)
	評価 (A, B, C, D)	課題	評価 (A, B, C, D)	推進会議委員意見	
R2	B	はぴこ会の活動の充実に向けた広報戦略の強化。婚活イベントを行うも、その後の交際に繋がっているかどうかの検証が難しい。また、カップル成立後の経過が把握しにくい。	B	プライバシーの問題があって、カップル成立後の経過が把握しにくいことであるが、参加条件に市が経過を追う旨を盛り込んでおけばよいと思う。改善の余地ありということで、B評価とする。	婚活支援活動が目につきやすいよう広報媒体の多角化、内容の充実を図る。イベント参加後のアフターフォローについて、はぴこ会や民間団体等と協力し、カップルの経過の把握に努める。
R3	A	はぴこ登録に繋げるため、市のイベント等から会員登録へ誘導し「はぴこ会」との連携を強化する。婚活者のニーズを把握したうえで、コロナ禍に即した婚活イベントを計画する。	A	市単独でするよりは、良い成果が出せてると感じる。実績が目標値を上回っているため、目標値をステップアップしてみてもどうか。利用者の満足度を把握しておくべきでは。	市が関わる婚活イベントにおいて「はぴこ会」のPRを積極的に行う。 過去の参加者アンケートなどから満足度の高いイベント内容を掴み、コロナ禍に即した企画にする。
R4					
R5					
R6					
R7					
評価基準			備考欄		
A: 目標達成に向かって順調に進んでいる。 B: 目標達成に向かってある程度進んでいる。 C: 目標達成に向かってあまり進んでいない。 D: 目標達成に向かって進んでいない。					

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 子ども未来課

事業名	不妊治療費助成事業									
基本目標	基本目標1 結婚・出産・子育てを支援し、女性の定着を図る									
施策	(2) 出産・子育て環境の充実									
目的	不妊治療を受けている夫婦に対し、治療に要する費用を助成し経済的な負担軽減を図る。									
手段(Plan)	一般不妊治療費助成事業として、医療保険が適用となる不妊治療等に要した費用の一部を助成した。また特定不妊治療費助成事業として、医療保険が適用されない体外受精等に要した費用に対し助成を行った。									
詳細事業内容(Do)	成果説明書(下段:頁)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
		95P								
決算額	総事業費(千円)	3,966	4,001	0	0	0	0			
	財源内訳	国・県	1,392	1,480						
		地方債	0	0						
		その他	0	0						
		一般財源	2,574	2,521						
重要業績指標KPI	不妊治療費の助成数(単年)									
現状値	目標値		R2	R3	R4	R5	R6	R7	単位	
		目標	70	70					人	
62(H30)	70(R7)	実績	78	71					平均達成率	
		達成率	111.4%	101.4%					106.4%	

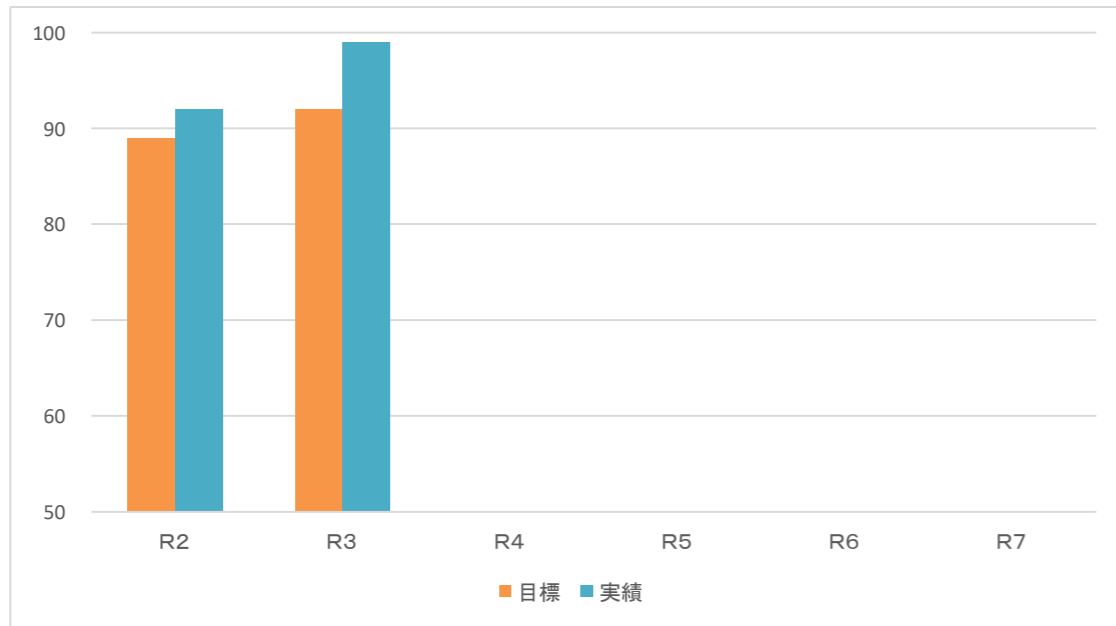


	内部評価 (Check)		外部評価 (Check)		改善策等(Action)
	評価 (A, B, C, D)	課題	評価 (A, B, C, D)	推進会議委員意見	
R2	A	一般不妊治療から特定不妊治療に切り替えられた方もある。特定不妊治療においては、島根県の助成拡大に伴い、安来市の上乗せ助成の拡大となるため、一般・特定不妊治療費助成事業の周知の徹底と医療機関への協力をお願いが必要である。	A	プライバシーの問題もあるが、効果検証のため、本助成制度を受けての出産数を把握すべき。広報活動の充実を検討してほしい。費用がかかることだが、将来的な定住につながることで、安いものだと思う。	事業継続と周知の徹底。令和2年度4月開設の母子健康包括支援センター「ぴっこりに」において一般不妊と特定不妊治療助成事業についてのポスター掲示。
R3	A	令和4年度から不妊治療のうち人工授精等の「一般不妊治療」、体外受精、顕微授精等の「生殖補助医療」が新たに保険適用されることになる。これに伴い、これまで行っていた不妊治療助成を見直し、新たな助成制度を設け、引き続き周知の徹底を図る必要が	A	なし	
R4					
R5					
R6					
R7					
評価基準			備考欄		
A: 目標達成に向かって順調に進んでいる。 B: 目標達成に向かってある程度進んでいる。 C: 目標達成に向かってあまり進んでいない。 D: 目標達成に向かって進んでいない。					

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 教育総務課

事業名	放課後児童健全育成事業									
基本目標	基本目標1 結婚・出産・子育てを支援し、女性の定着を図る									
施策	(2) 出産・子育て環境の充実									
目的	保護者が就労等により昼間家庭にいない小学校児童を対象に、放課後に「遊びの場」「生活の場」を提供し、子どもの主体性を尊重しながら健全育成を図る。									
手段(Plan)	各小学校区にある放課後児童クラブ運営委員会及び社会福祉法人等に委託をして実施する。									
詳細事業内容(Do)	成果説明書(下段:頁)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
		74P								
決算額	総事業費(千円)	164,912	120,681	0	0	0	0			
	財源内訳	国・県	135,311	82,690						
		地方債		32,000						
		その他		2,000						
		一般財源	29,601	3,991						
重要業績指標KPI	放課後児童クラブ入所希望児童受入率									
現状値	目標値		R2	R3	R4	R5	R6	R7	単位	
		目標	89	92					%	
94.1(R1)	100(R7)	実績	92	99					平均達成率	
		達成率	103.4%	107.6%					105.5%	



	内部評価 (Check)		外部評価 (Check)		改善策等(Action)
	評価 (A, B, C, D)	課題	評価 (A, B, C, D)	推進会議委員意見	
R2	A	令和2年度に3箇所の施設整備を行い受け皿の確保に取り組んだ。令和3年度から17クラブへ運営委託をすることとなるが、引き続き入所を希望する児童を受け入れていきたい。	A	将来の児童数を推計しながら、待機児童が出ないように運営してほしい。ハード面、ソフト面両方の安全対策を徹底しながら、また、施設間での連携をとりながら取り組んでほしい。	入所を希望する児童を受け入れられるよう、クラブ運営について、クラブ訪問や全クラブを対象とした連絡会等を通し情報交換を行いながら支援をしていく。
R3	A	令和3年度から17クラブへ運営を委託して実施している。安定的なクラブ運営を実施してもらえよう人材育成の促進の働きかけ等を行い、引続き入所を希望する児童を受け入れていきたい。	A	校区外のクラブへの受け入れ状況を把握し、窓口を一元化できるとよい。(R5から入所申込を市で一括して受け付ける予定)	クラブ運営について、クラブ訪問や全クラブを対象とした連絡会等を通し情報交換を行いながら支援をしていく。
R4					
R5					
R6					
R7					
評価基準			備考欄		
<p>A: 目標達成に向かって順調に進んでいる。 B: 目標達成に向かってある程度進んでいる。 C: 目標達成に向かってあまり進んでいない。 D: 目標達成に向かって進んでいない。</p>					

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 子ども未来課

事業名	保育料軽減事業							
基本目標	基本目標1 結婚・出産・子育てを支援し、女性の定着を図る							
施策	(2) 出産・子育て環境の充実							
目的	保護者の経済的負担を軽減することにより、安心して子どもを産み育てる環境づくりを推進する。							
手段(Plan)	3歳未満児の第1子・第2子の保育料(一定所得以下の世帯の児童)及び3人以上養育する世帯の児童に係る保育料を軽減する。							
詳細事業内容(Do)	成果説明書(下段:頁)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		85.86.89P						
決算額	総事業費(千円)	24,560	26,931	0	0	0	0	
	財源内訳	国・県	19,675	20,127				
		地方債						
		その他						
	一般財源	4,885	6,804					

令和3年度実績

令和3年度の事業の内訳

	第1子・2子		第3子以降		合計	
	金額	人数	金額	人数	金額	人数
私立保育園等	11,056	307	5,629	94	16,685	401
市立保育所	2,769	77	1,136	22	3,905	99
市立認定こども園	4,390	122	1,951	36	6,341	158
合計	18,215	506	8,716	152	26,931	658

人数は対象者数
金額単位:千円

	内部評価(Check)		外部評価(Check)		改善策等(Action)
	評価(A, B, C, D)	課題	評価(A, B, C, D)	推進会議委員意見	
R2	B	保育料を保護者へ補助(償還払い)する形でなく保育料自体を軽減しているため、経済的負担の軽減にはなっているが、事業の認知度が不明	B	市の施策として市民に認知してもらうためには、保育料決定通知の際に説明があってもよい。効果を実感している人が少ない、また定住対策の一環としての事業なので、もっと積極的に制度のPRをしてほしい。	保育料決定通知の際に事業についての周知について工夫をしていく
R3	B	軽減制度が複雑であるうえ、軽減された保育料を請求しているため、事業認知は低いと考えられる。	B	なし	
R4					
R5					
R6					
R7					
評価基準			備考欄		
A: 目的達成に向かって順調に進んでいる。 B: 目的達成に向かってある程度進んでいる。 C: 目的達成に向かってあまり進んでいない。 D: 目的達成に向かって進んでいない。					

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 子ども未来課

事業名	副食費助成事業							
基本目標	基本目標1 結婚・出産・子育てを支援し、女性の定着を図る							
施策	(2) 出産・子育て環境の充実							
目的	安心して子どもを生み育てる環境づくりを推進する							
手段(Plan)	多子世帯の保護者の経済的負担を軽減するため、保育所等に通う第3子以降の満4歳以上の児童の副食費を免除(上限4,500円)する。							
詳細事業内容(Do)	成果説明書(下段:頁)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		85.86.88.242P						
決算額	総事業費(千円)	4,143	4,867	0	0	0	0	
	財源内訳	国・県	2,071					
		地方債						
		その他						
	一般財源	2,072	4,867					

令和3年度実績

令和3年度の事業の内訳

	実績		備考
	金額	人数	
私立保育園等	2,646,000	49	
市立保育所	594,000	11	
市立認定こども園	1,223,200	23	
幼稚園	403,398	10	国基準による免除者は含まない
合計	4,866,598	93	

人数は実人数
金額単位:円

	内部評価(Check)		外部評価(Check)		改善策等(Action)
	評価(A, B, C, D)	課題	評価(A, B, C, D)	推進会議委員意見	
R2	B	これまで県の交付金を財源に行っていたが、県の乳児医療費拡充の財源確保ため、交付金の減少し、事業費に充てることができなくなった。	B	PRについては継続的に行ってもらいたい。また、財源確保について引き続き頑張ってほしい。	補助対象の範囲を検討する上で事業効果を把握していく。
R3	B	これまで充当していた県交付金が、乳児医療費拡充による財源確保のためになくなり、市単費での事業となった。	B	市の単費となったが、事業費が縮減されないか心配である。子どもを出産した家庭や出産を控えている家庭に対してわかりやすくPRをしていただきたい。	
R4					
R5					
R6					
R7					
評価基準			備考欄		
A: 目的達成に向かって順調に進んでいる。 B: 目的達成に向かってある程度進んでいる。 C: 目的達成に向かってあまり進んでいない。 D: 目的達成に向かって進んでいない。					

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 保険年金課

事業名	子ども医療費助成事業						
基本目標	基本目標1 結婚・出産・子育てを支援し、女性の定着を図る						
施策	(2) 出産・子育て環境の充実						
目的	子どもの医療費を助成することにより、子どもの疾病の早期発見・治療を促進するとともに、保護者の経済的負担の軽減を図り、子どもの健全な育成と安心して子どもを生み育てることができる環境づくりを促進する。						
手段(Plan)	0歳から中学3年生までの子どもに係る医療費のうち、社会保険各法等の規定により被保険者が負担することとなる費用の全額を助成する。						
詳細事業内容(Do)	成果説明書(下段:頁)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	総事業費(千円)	116,080	128,322	0	0	0	0
決算額	財源内訳						
	国・県	19,896	37,937				
	地方債	50,100	49,500				
	その他	25,446	23,551				
	一般財源	20,638	17,334				

令和3年度実績

1. 対象者数(令和4年3月末現在)

- ①0歳以上就学前: 1,646人(△92人)
- ②小学校1~6年生: 1,787人(△42人)
- ③中学校1~3年生: 979人(△38人)
- ④計: 4,412人(△172人)

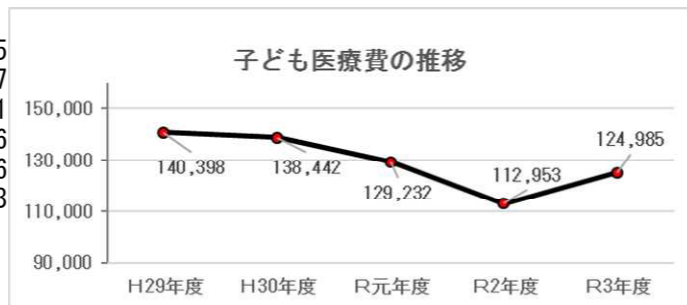
※()内は前年同月末比



2. 子ども医療費助成実績

(1) 年齢による分類

	助成額	件数
①0歳以上就学前	59,604,709円	29,275
うち市単独助成	12,419,547円	17,137
②小中学生	65,380,474円	29,121
うち市単独助成	32,649,460円	10,396
③計	124,985,183円	58,396
うち市単独助成	45,069,007円	27,533



(2) 支払方法による分類

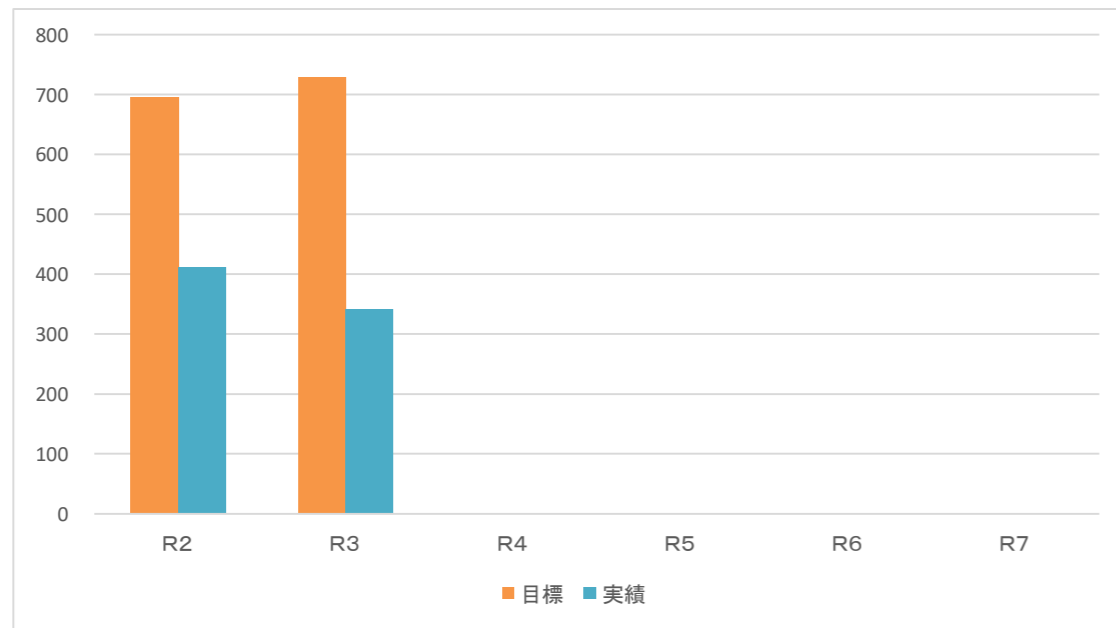
	助成額	件数
①現物給付(国保連合会へ委託)	115,072,515円	55,175
②償還払(対象者へ支払い)	9,912,668円	3,221

	内部評価(Check)		外部評価(Check)		改善策等(Action)
	評価(A, B, C, D)	課題	評価(A, B, C, D)	推進会議委員意見	
R2	A	①償還払申請に係る手続きの簡素化 ②財源の確保	A	県外の医療機関でも無償化しているところは増えていく実感はあるが、どこが無償なのか分からないので、子ども医療費受給資格証の利用可能な医療機関一覧を学校で配るなど周知方法を拡充してほしい。	①島根県国保連合会を通じて現物給付化について医療機関等へ協力を依頼 ②国・島根県への要望を継続
R3	A	①償還払申請に係る手続きの簡素化 ②財源の確保	A	評価基準が難しい。制度をしっかりと市民に認知してもらって安心して暮らせることをPRしていくことが大切である。評価対象として入れるべきか否かも検討すべき。	①島根県国保連合会を通じて現物給付化について医療機関等へ協力を依頼 ②国・島根県への要望を継続
R4					
R5					
R6					
R7					
評価基準			備考欄		
A: 目的達成に向かって順調に進んでいる。 B: 目的達成に向かってある程度進んでいる。 C: 目的達成に向かってあまり進んでいない。 D: 目的達成に向かって進んでいない。					

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 子ども未来課

事業名	地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター・つどいの広場）									
基本目標	基本目標1 結婚・出産・子育てを支援し、女性の定着を図る									
施策	（2）出産・子育て環境の充実									
目的	地域における子育て支援環境を充実することにより、きめ細かな育児支援を行う。									
手段（Plan）	子育て支援センターを設置し、子育て支援事業を総合的に推進する。またつどいの広場事業の実施により、乳幼児とその親たちが気軽に集い、情報交換や子育て相談等を行う。									
詳細事業内容（Do）	成果説明書（下段：頁）	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
		70-72P								
決算額	総事業費（千円）	3,078	3,592	0	0	0	0			
	財源内訳	国・県	1,342	1,255						
		地方債	0	0						
		その他	0	0						
一般財源	1,736	2,337								
重要業績指標 KPI	子育て支援センター利用者数（月当たり平均）※つどいの広場利用者含む									
現状値	目標値		R2	R3	R4	R5	R6	R7	単位	
		目標	695	728					人/月	
588	763	実績	412	342					平均達成率	
(H30)	(R7)	達成率	59.3%	47.0%					53.1%	

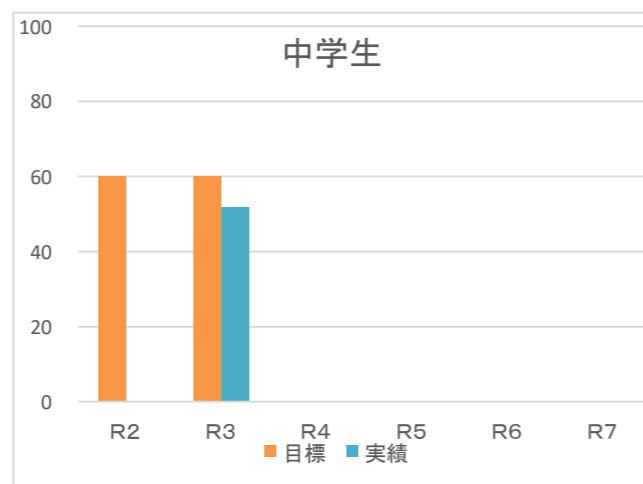
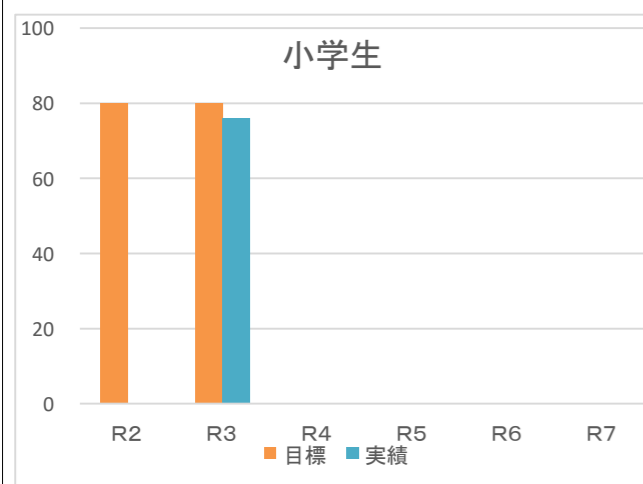


	内部評価 (Check)		外部評価 (Check)		改善策等 (Action)
	評価 (A, B, C, D)	課題	評価 (A, B, C, D)	推進会議委員意見	
R2	C	子育て支援活動の関わりに消極的な家庭や、児童の養育に困難さを持っているケースがあり、この場合における支援の難しさがある。新型コロナウイルス感染拡大防止のため人数制限を設けたこともあり、利用者が減った。	B	子育て世代以外は施設の利用を知らないで、PRを推進してほしい。民生児童委員等への情報提供、連携をお願いしたい。目標値を達成できなかったのは、コロナの影響があるので、評価は上げてよい。	子育てイベントへの参加推奨等、子育て支援活動の関わり合いの機会増加に努め、センター間の連携を図る。ウイルス感染予防対策を徹底し、安心して利用してもらえる場を提供する。
R3	B	定住推進事業（やすぎ暮らし推進課実施）を通じて、安来高校の生徒が「つどいの広場」のパンフレットを作成し、設置・配布するなどしてPRを図ったが、新型コロナウイルスや少子化の影響で利用者減少となった。引き続きイベント周知や感染予防を徹底するとともに親子が気軽に集える場を提供する。	B	コロナ禍でもあるので、オンライン相談ができる実績も上がり、目的は達成できると思う。事業の存在は知っているが行けない・行きづらい人のフォローができると良い。	
R4					
R5					
R6					
R7					
評価基準			備考欄		
A：目標達成に向かって順調に進んでいる。 B：目標達成に向かってある程度進んでいる。 C：目標達成に向かってあまり進んでいない。 D：目標達成に向かって進んでいない。					

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 学校教育課

事業名	ふるさと教育推進事業									
基本目標	基本目標1 結婚・出産・子育てを支援し、女性の定着を図る									
施策	(3) 学校教育の充実・ふるさと教育の推進									
目的	家庭や地域と連携し、地域の教育資源を活用できる「ふるさと」を切り口に児童・生徒の豊かな人間性や社会性を育む。									
手段(Plan)	それぞれの地域において様々な知識や技能をもった「ひと」とのかかわりを大切にしながら安来の教育資源となる「ひと」「もの」「こと」を活用した学習活動を展開する。									
詳細事業内容(Do)	成果説明書(下段:頁)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
		219P								
決算額	総事業費(千円)	7,321	6,934	0	0	0	0			
	財源内訳	国・県	2,345	1,725						
		地方債								
		その他	4,000	4,180						
	一般財源	976	1,029							
重要業績指標KPI	全国学力調査の生徒質問紙の回答割合(小学生)									
現状値	目標値	R2	R3	R4	R5	R6	R7	単位		
	目標	80	80					%		
77.7(H30)	80(R7)	実績		75.9					平均達成率	
		達成率		94.9%						
重要業績指標KPI	全国学力調査の生徒質問紙の回答割合(中学生)									
現状値	目標値	R2	R3	R4	R5	R6	R7	単位		
	目標	60	60					%		
56.9(H30)	60(R7)	実績		52					平均達成率	
		達成率		86.7%					86.7%	

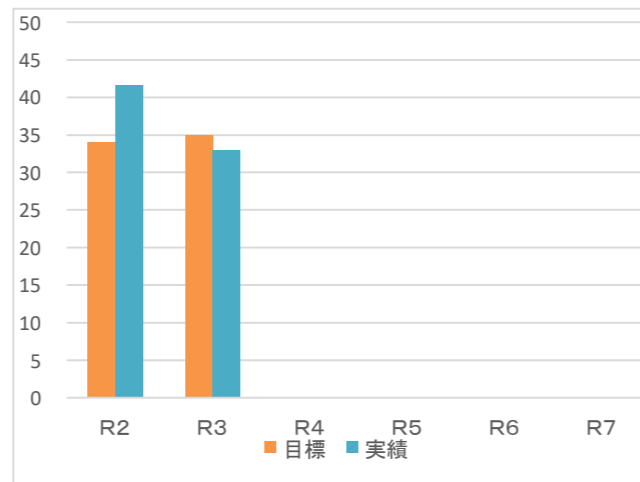
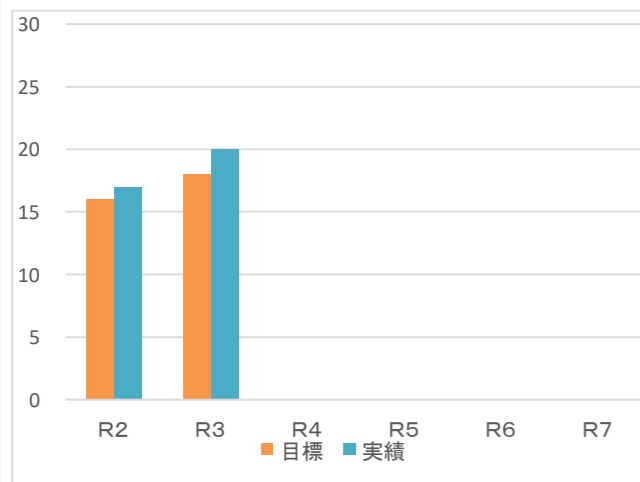


	内部評価 (Check)		外部評価 (Check)		改善策等(Action)
	評価 (A, B, C, D)	課題	評価 (A, B, C, D)	推進会議委員意見	
R2		新型コロナウイルス感染拡大により、全国学力調査は中止となったため、KPIの実績値及び評価欄は空欄とした。しかしながら地域への愛着や地域のために貢献しようとする心情を養うため安来市内小中学校においては、別紙のような様々な教育活動に取り組んだ。	A	非常に良い取り組みなので、ぜひ継続していただき、将来安来市で起業するような人を育ててほしい。マンネリ化しないように、事業の内容を見直しながら、次につなげられるような活動をしてほしい。	研修会や協議会等の機会や広報誌等で活動を周知していくことで、学校と地域のよりよい連携・協働体制づくりを推進し、児童・生徒自身にも地域の一人であることの自覚を高めていく。
R3	B	コロナ禍の状況は続いたが、感染防止対策やICTの活用など、様々な工夫をしながら児童の発達段階に応じた学習活動を実施した(詳細別紙)。また転入教職員ふるさと教育研修会を開催し、教職員が安来の教育資源を知り教材化につなげる機会とした。コロナ禍や高齢化により地域の支援ボランティアの確保が難しくなっている。	B	子ども達が如何にふるさとに魅力を持つか、子ども達がふるさとに何を求めているか把握するため、今のふるさと教育を子ども達に評価してもらうのはどうか。 子ども達からのふるさとに関する発表の場を設け、子ども達から教えてもらう機会を持つのも良い。	研修会や広報等の機会を捉えて活動を周知していくことで、ふるさと教育の意義への理解を促す。併せて地域コーディネーターや交流センター職員と連携して人材確保・育成に努める。
R4					
R5					
R6					
R7					
評価基準			備考欄		
<p>A: 目標達成に向かって順調に進んでいる。 B: 目標達成に向かってある程度進んでいる。 C: 目標達成に向かってあまり進んでいない。 D: 目標達成に向かって進んでいない。</p>					

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 やすぎ暮らし推進課

事業名	企業立地雇用促進事業								
基本目標	基本目標2 産業振興により、魅力ある雇用の場を創出する								
施策	(1) ものづくり産業等の振興								
目的	市内への企業立地による事業拡大や雇用の確保を促進し、魅力ある産業振興を図る。								
手段 (Plan)	企業の新設、増設にかかる経費の一部補助及び雇用者数に応じた支援、また、企業見学ツアーなど、高校生を対象とした市内企業の紹介等を行う。								
詳細事業内容 (Do)	成果説明書 (下段:頁)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		153P							
決算額	総事業費 (千円)	33,300	73,639	0	0	0	0		
	財源内訳	国・県							
		地方債							
		その他	33,000	73,000					
	一般財源	300	639						
重要業績指標 KPI	立地企業数 (累計)								
現状値	目標値	R2	R3	R4	R5	R6	R7	単位	
	目標	16	18					件	
14 (H27~30)	26 (R7)	実績	17	20				平均達成率	
		達成率	106.3%	111.1%				108.7%	
重要業績指標 KPI	市内高校生の市内就職率								
現状値	目標値	R2	R3	R4	R5	R6	R7	単位	
	目標	34	35					%	
34 (R2.1)	40 (R7)	実績	41.6	33				平均達成率	
		達成率	122.4%	94.3%				108.3%	

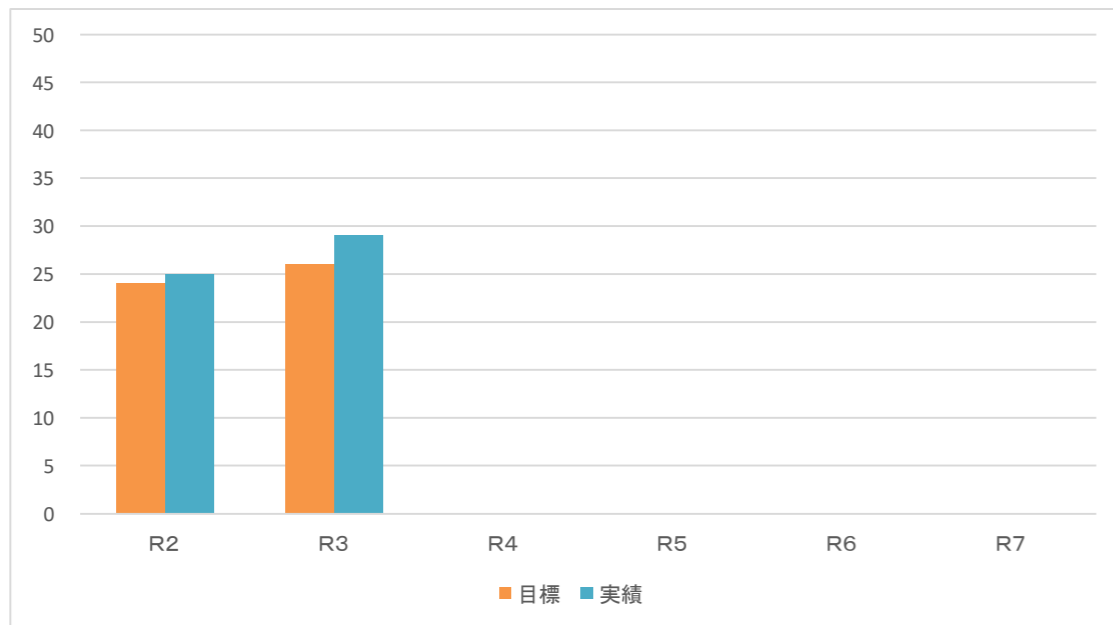


	内部評価 (Check)		外部評価 (Check)		改善策等 (Action)
	評価 (A, B, C, D)	課題	評価 (A, B, C, D)	推進会議委員意見	
R2	B	企業の動向、情報を入手し、奨励金の交付見込みを立てておく必要がある。また、雇用の増大が見込める進出の働きかけを強化する必要がある。	B	企業立地と市内高校生の市内就職が繋がっているか不明である。企業立地は難しい問題なのでプロセスを評価すべきである。一朝一夕な点もあり単年度で評価するのは気の毒な面もある。土地所有者に立地を希望する企業の情報を発信すると良い。	市内高校との連携強化により、学生が市内企業を知る機会を増やす。また、誘致活動を強化し、多様な産業構造を目指す。
R3	B	分譲中の産業団地がなく、企業の進出地の候補となりにくい。また、市内企業紹介を目的とした企業見学ツアーの実施が一部の高校に限られている。	B	安来は鉄鋼業以外の色がなく企業立地に影響しているように思えるので、他の色も出していく必要がある。分譲中の工業団地がない問題も克服する必要がある。商工団体や県と協力しながら、取り組む必要がある。	空き工場等の居抜き物件の把握に努め、進出検討企業へ迅速に情報提供出来る体制を維持する。また、高校との連携を強化し、市内の全校で企業見学バスツアーを開催し、生徒の定住意識を高める。
R4					
R5					
R6					
R7					
評価基準			備考欄		
<p>A: 目標達成に向かって順調に進んでいる。 B: 目標達成に向かってある程度進んでいる。 C: 目標達成に向かってあまり進んでいない。 D: 目標達成に向かって進んでいない。</p>					

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 農林振興課

事業名	新規就農者確保対策事業（農業次世代人材投資事業等）								
基本目標	基本目標2 産業振興により、魅力ある雇用の場を創出する								
施策	（2）農林業の振興								
目的	次世代を担う農業者となることを志向する就農希望者の支援を行い、認定新規就農者数を増加させる。								
手段（Plan）	農業技術及び農業経営力の習得のための研修支援、また、経営開始直後の新規就農者に対して経営安定のための補助を行う。								
詳細事業内容（Do）	成果説明書（下段：頁）	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	121P								
決算額	総事業費（千円）	19,745	20,817	0	0	0	0		
	財源内訳								
	国・県	19,470	20,550						
	地方債								
	その他	275	267						
一般財源									
重要業績指標 KPI	認定新規就農者（累計）								
現状値	目標値	R2	R3	R4	R5	R6	R7	単位	
	目標	24	26					人	
18（H30）	34（R7）	実績	25	29				平均達成率	
	達成率	104.2%	111.5%					107.9%	

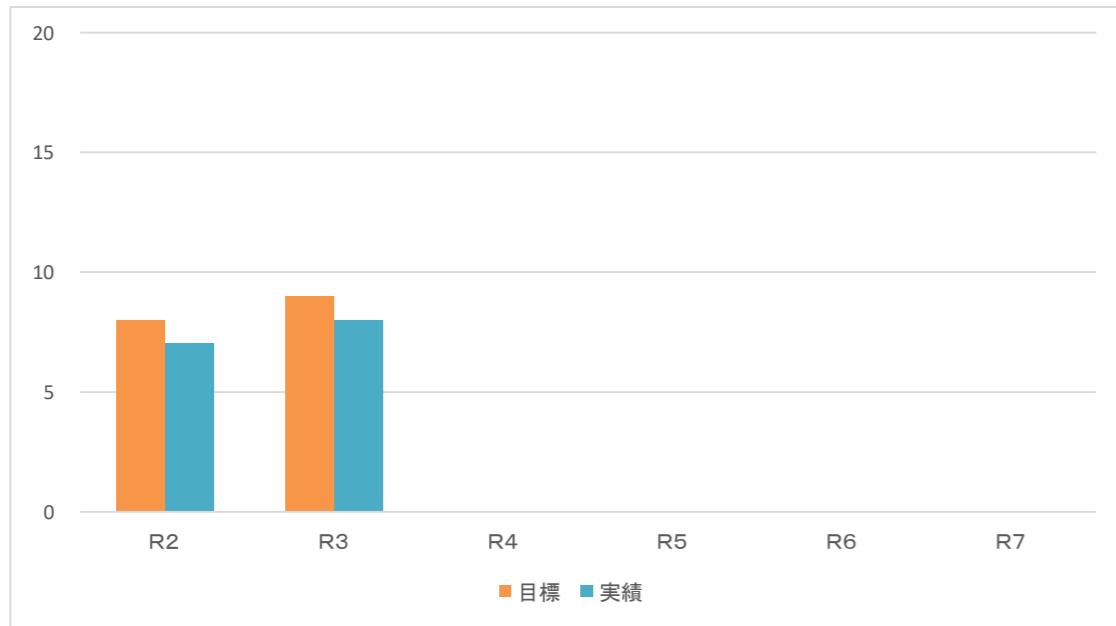


	内部評価（Check）		外部評価（Check）		改善策等（Action）
	評価（A, B, C, D）	課題	評価（A, B, C, D）	推進会議委員意見	
R2	A	研修の師匠となる農業士が高齢化しており、人材確保が必要である。また、体験プログラムの受入農家の負担を軽減するための対応も必要である。	A	数値もクリアし、各新規就農者の状況も把握できており、フォローにつながっている点は評価できる。Iターンが多いのはPRもできていると評価できる。	農業士の掘り起こしとして、農業士会事業と共催し、農業士研修を実施する。体験プログラムの受入農家の負担軽減のため、体験期間の圧縮などスケジュールの調整を図る。
R3	A	新型コロナ禍、ウクライナ情勢を起因とした資材価格高騰が続き、施設整備費の異常な増が深刻な問題となっている。	A	経営の土台を作ったうえで、の取り組みが新規就農数の増加につながっているのび引き続き推進していただきたい。	現在の状況は、新規での就農において許容できないほどのリスクとなっている（収支のバランスが取れず、現実的な就農計画がたてられない）。新規増よりも既存の研修生、認定新規就農者のサポートへの注力を図る。
R4					
R5					
R6					
R7					
評価基準			備考欄		
A：目標達成に向かって順調に進んでいる。 B：目標達成に向かってある程度進んでいる。 C：目標達成に向かってあまり進んでいない。 D：目標達成に向かって進んでいない。					

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 農林振興課

事業名	就農・定住パッケージ事業									
基本目標	基本目標2 産業振興により、魅力ある雇用の場を創出する									
施策	(2) 農林業の振興									
目的	UIターンによる新規就農及び地域定住の促進を図る。									
手段 (Plan)	UIターン者が特定の受入地域で新規就農する場合について、就農者定住促進賃貸住宅を建設し、居住の支援を行う。									
詳細事業内容 (Do)	成果説明書 (下段:頁)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
		121.122P								
決算額	総事業費 (千円)	29,174	17,298	0	0	0	0			
	財源内訳	国・県								
		地方債	24,800	12,700						
		その他								
	一般財源	4,374	4,598							
重要業績指標 KPI	就農者定住促進賃貸住宅 (累計)									
現状値	目標値		R2	R3	R4	R5	R6	R7	単位	
		目標	8	9					棟	
4 (H30)	14 (R7)	実績	7	8					平均達成率	
		達成率	87.5%	88.9%					88.2%	

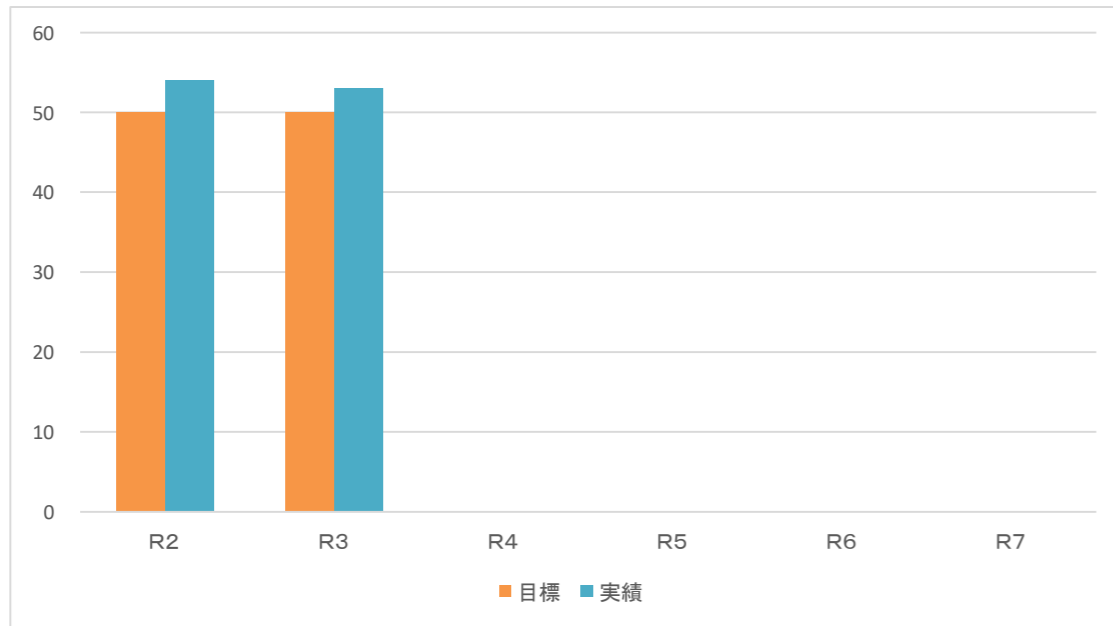


	内部評価 (Check)		外部評価 (Check)		改善策等 (Action)
	評価 (A, B, C, D)	課題	評価 (A, B, C, D)	推進会議委員意見	
R2	B	新規就農者が希望する農地・居住地と、受入希望地域の農地・住宅建設予定地の合致が難しい。	B	Iターン者には魅力的で、今はうまくいっているが、将来的な不安（経営不振となった場合や健康上の理由で25年続けられない場合等）が課題である。	必要に応じて受入希望地域と協議し、新たな住宅建設予定地がないか聞き取りを行う。
R3	C	新型コロナ禍、ウクライナ情勢を起因とした資材価格高騰や部材入手困難、また、建設予定地の転用、接道要件等の課題により、事業実施の調整が大きな負担となってきた。	B	住環境を充実させることは良い取り組みなので引き続きサポートをしていただきたい。資材の高騰により目標どおりいかなかったが、最大限の努力をしていると評価しBとする。	入居者負担（建設後の家賃への反映）も前提とした、建設事業費上限の増、市による建設予定地への進入路整備など、住宅建設に向けた調整を図る。
R4					
R5					
R6					
R7					
評価基準			備考欄		
<p>A: 目標達成に向かって順調に進んでいる。 B: 目標達成に向かってある程度進んでいる。 C: 目標達成に向かってあまり進んでいない。 D: 目標達成に向かって進んでいない。</p>					

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 やすぎ暮らし推進課

事業名	産業サポートネットやすぎ事業									
基本目標	基本目標2 産業振興により、魅力ある雇用の場を創出する									
施策	(3) 商業等振興への支援									
目的	多面的、加速的に産業の活性化を図るため、農林商工関係機関と連携し、『域外マネーの獲得(拡大)』『地域雇用の拡大』『市内循環型経済へのシフト』『定住促進』を目指す									
手段(Plan)	各種補助金制度を創設し、個々の事業者の発展に繋がる取り組みを補助する。									
詳細事業内容(Do)	成果説明書(下段:頁)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
		152P								
決算額	総事業費(千円)	10,403	6,897	0	0	0	0			
	財源内訳	国・県								
		地方債	7,900	6,000						
		その他	2,000							
	一般財源	503	897							
重要業績指標KPI	産業サポートネットやすぎによる支援件数(単年)									
現状値	目標値		R2	R3	R4	R5	R6	R7	単位	
		目標	50	50					件	
50	50	実績	54	53					平均達成率	
(H30)	(R7)	達成率	108.0%	106.0%					107.0%	

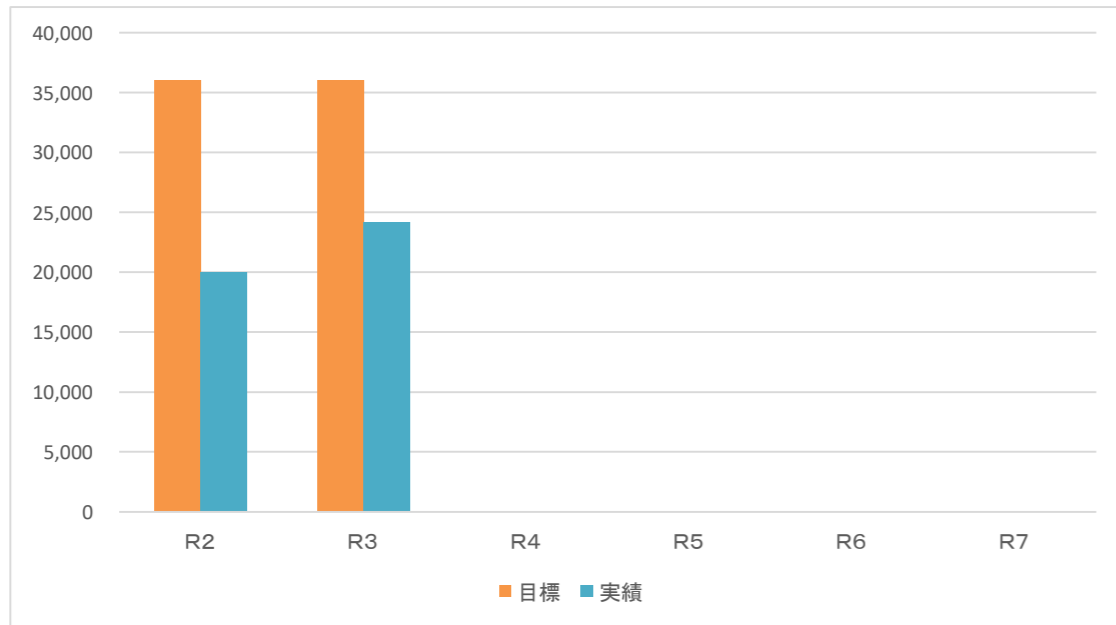


	内部評価 (Check)		外部評価 (Check)		改善策等(Action)
	評価 (A, B, C, D)	課題	評価 (A, B, C, D)	推進会議委員意見	
R2	B	コロナの影響で実施しづらい事業もあったが、逆にコロナをきっかけに発生した取り組みもあり、総件数に大きな動きはなかった。毎年のように制度を活用している事業所もあるので、幅広い業種・事業者にも活用してもらいたい。	B	集中している事業と全く行われていない事業があり、ゼロを解消する取り組みが必要である。一朝一夕で成果が出るものではなく、この事業で雇用が増えたと示せればなお良い。	産業サポートネットの構成員として農林振興課職員にも加わってもらい、農林業分野の振興にも繋げていきたい。
R3	B	支援件数は昨年並みの実績であったが、1件当たりの支援単価が減少し、総事業費は昨年度比約33%減となった。より多くの事業者にも幅広く活用してもらうために、制度周知を徹底する必要がある。	B	この事業による効果がわかるデータがほしい。高騰している材料費の支援もあると良い。	産業サポートネットの構成員として、関係する担当課にも加わってもらい、産業振興を進めていきたい。
R4					
R5					
R6					
R7					
評価基準			備考欄		
A: 目標達成に向かって順調に進んでいる。 B: 目標達成に向かってある程度進んでいる。 C: 目標達成に向かってあまり進んでいない。 D: 目標達成に向かって進んでいない。					

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 観光振興課

事業名	誘客推進事業									
基本目標	基本目標2 産業振興により、魅力ある雇用の場を創出する									
施策	(4) 地域資源を活かした観光振興									
目的	国内外の観光客に提供可能な体験型・滞在型の観光を目指し、本市の優れた自然、歴史文化などの豊かな観光資源を調査・発掘して観光コンテンツを磨き上げ、全市的・広域的な新しい観光ルートを設定するなど、観光のまちづくりを推進する。									
手段(Plan)	市内観光施設の整備・拡充を図るとともに、魅力ある観光コンテンツを造成するほか、観光キャンペーンを実施することにより誘客推進を行う。 コロナ禍対策としては、新たな旅のスタイルに対応した誘客促進を実施した。									
詳細事業内容(Do)	成果説明書(下段:頁)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	157-161.163-171P									
決算額	総事業費(千円)	243,320	274,913	0	0	0	0			
	財源内訳	国・県	26,691	62,320						
		地方債	28,600	44,130						
		その他	38,136	38,144						
		一般財源	149,893	130,319						
重要業績指標KPI	宿泊者数(単年)									
現状値	目標値		R2	R3	R4	R5	R6	R7	単位	
		目標	36,000	36,000					人	
35,417(H30)	36,000(R7)	実績	19,934	24,160					平均達成率	
		達成率	55.4%	67.1%					61.2%	

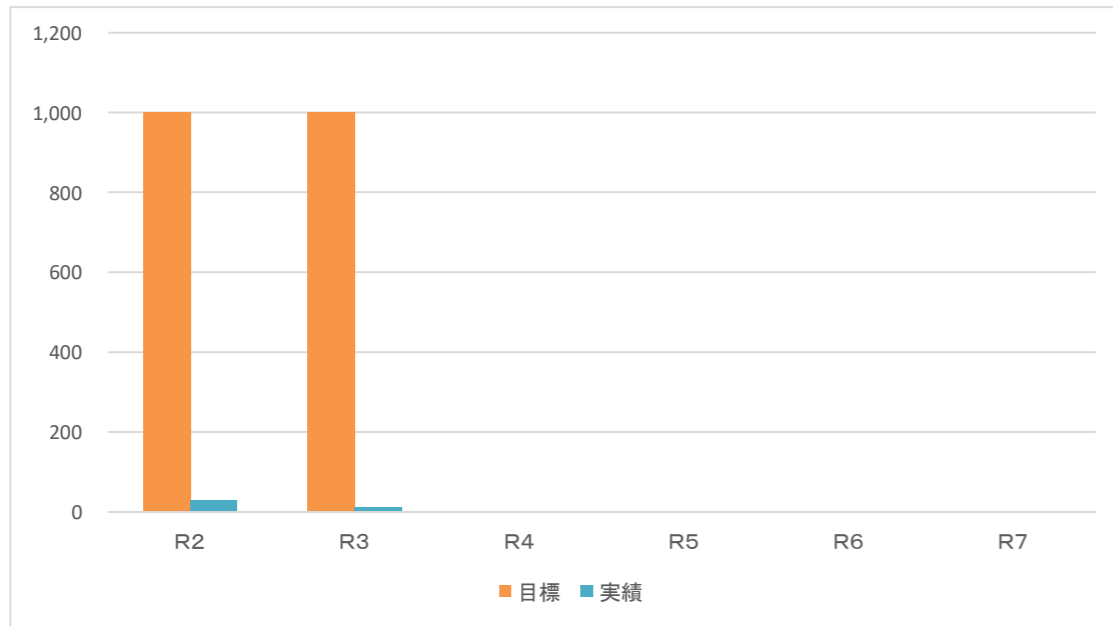


	内部評価 (Check)		外部評価 (Check)		改善策等(Action)
	評価 (A, B, C, D)	課題	評価 (A, B, C, D)	推進会議委員意見	
R2	B	・新たな旅行スタイルへの対応 ・受け地対策のためボランティアガイドの体制づくりと質の向上。また、誘客後の観光消費額の低さが課題。	C	コロナ禍でも素材の磨き上げの再認識ができています等プロセスは評価できる。アフターコロナ、ウィズコロナを考えると宿泊者数だけを目指すのか考える必要がある。修学旅行をターゲットにしたことは評価できる。	・コロナ禍でも需要のある屋外観光地を活用した、観光商品の開発。マイクロツーリズムを意識した地域の魅力の再発見と観光コンテンツづくり。 ・観光客に喜ばれる土産品の開発等、観光消費額拡大の取組を行う必要がある。
R3	B	・受け地対策のためボランティアガイドの体制づくりと質の向上。また、誘客後の観光消費額の低さが課題。 ・自然体験型観光コンテンツが少ない。	B	YouTubeやSNSなど手数を増やす必要を感じている。イベントを増やすなどの取り組みも必要。広域的な取り組みも積極的にすべき。安来市の魅力を市民が知らないと感じたので、市民に安来のことを知ってもらうことにも取り組んでみてはどうか。	・コロナ禍でも需要のある屋外観光地を活用した、観光商品の開発。マイクロツーリズムやエリアツーリズムを意識した観光エリアのブランド力強化を行う。
R4					
R5					
R6					
R7					
評価基準			備考欄		
A: 目標達成に向かって順調に進んでいる。 B: 目標達成に向かってある程度進んでいる。 C: 目標達成に向かってあまり進んでいない。 D: 目標達成に向かって進んでいない。					

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 観光振興課

事業名	インバウンド推進事業								
基本目標	基本目標2 産業振興により、魅力ある雇用の場を創出する								
施策	(4) 地域資源を活かした観光振興								
目的	市内主要観光地を中心とした観光プロモーションや、外国人向けの観光コンテンツを造成するなど、市内観光資源の認知度の向上を図り外国人旅行者誘客することで地域活性化を図る。								
手段 (Plan)	安来市観光協会、中海・宍道湖・大山圏域観光局や山陰インバウンド機構など、関連団体と連携しインバウンド対策を行う。								
詳細事業内容 (Do)	成果説明書 (下段:頁)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		157-159P							
決算額	総事業費 (千円)	10,648	2,371	0	0	0	0		
	財源内訳								
	国・県								
	地方債	5,000	170						
	その他								
	一般財源	5,648	2,201						
重要業績指標 KPI	外国人宿泊者数 (単年)								
現状値	目標値		R2	R3	R4	R5	R6	R7	単位
		目標	1000	1000					人
714 (H30)	1,000 (R7)	実績	28	10					平均達成率
		達成率	2.8%	1.0%					1.9%



	内部評価 (Check)		外部評価 (Check)		改善策等 (Action)
	評価 (A, B, C, D)	課題	評価 (A, B, C, D)	推進会議委員意見	
R2	C	・市内にある観光コンテンツの魅力、歴史的ストーリーが外国人にも伝わるような媒体の不足。	C	コロナ禍でも素材の磨き上げの再認識ができています等プロセスは評価できる。国によって観光の特性があるので、それぞれの国のニーズに合わせる取り組みが必要である。	・アフターコロナを見据え、山陰インバウンド機構等と連携した対外的なPRや観光案内の多言語化、外国人向けの観光コンテンツの造成を行う。
R3	C	・市内にある観光コンテンツの魅力、歴史的ストーリーが外国人にも伝わるような媒体の不足。 ・案内看板等を含め他言語化が不十分。	C	外国人を呼び込む状況にないので、評価をしばらくやめてもいいのでは。誘客推進事業と統合しても良いのではないかと。	・山陰インバウンド機構など関係団体と連携した対外的なPRや観光案内の多言語化、外国人向けの観光・体験コンテンツの造成、二次交通の充実を図る。
R4					
R5					
R6					
R7					
評価基準			備考欄		
A: 目標達成に向かって順調に進んでいる。 B: 目標達成に向かってある程度進んでいる。 C: 目標達成に向かってあまり進んでいない。 D: 目標達成に向かって進んでいない。					

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 建築住宅課

事業名	公営住宅整備事業							
基本目標	基本目標3 住環境を向上し、市民の定住意識を高める							
施策	(1) 住宅の確保							
目的	老朽化の進む公営住宅等ストックについて順次改善工事を行い、効率的に長寿命化を図っていく。また、公営住宅等長寿命化計画に基づき、住宅整備に係る事業を行う。							
手段 (Plan)	令和元年度に見直しを行った公営住宅等長寿命化計画に基づき、既存市営住宅ストックをより効率的かつ長期的に活用するため、老朽化の進む既存市営住宅の改善工事を行う。また、老朽化の進む既存市営住宅の建替工事を行い、優良住宅形成に努める。							
詳細事業内容 (Do)	成果説明書 (下段:頁)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	207P							
決算額	総事業費(千円)	17,717	15,137	0	0	0	0	
	財源内訳							
	国・県	1,682	2,427					
	地方債	14,200	6,600					
	その他	0	0					
一般財源	1,835	6,110						

令和3年度実績

和田団地2戸及び御崎団地2戸の内部改善工事を行った。



改修前

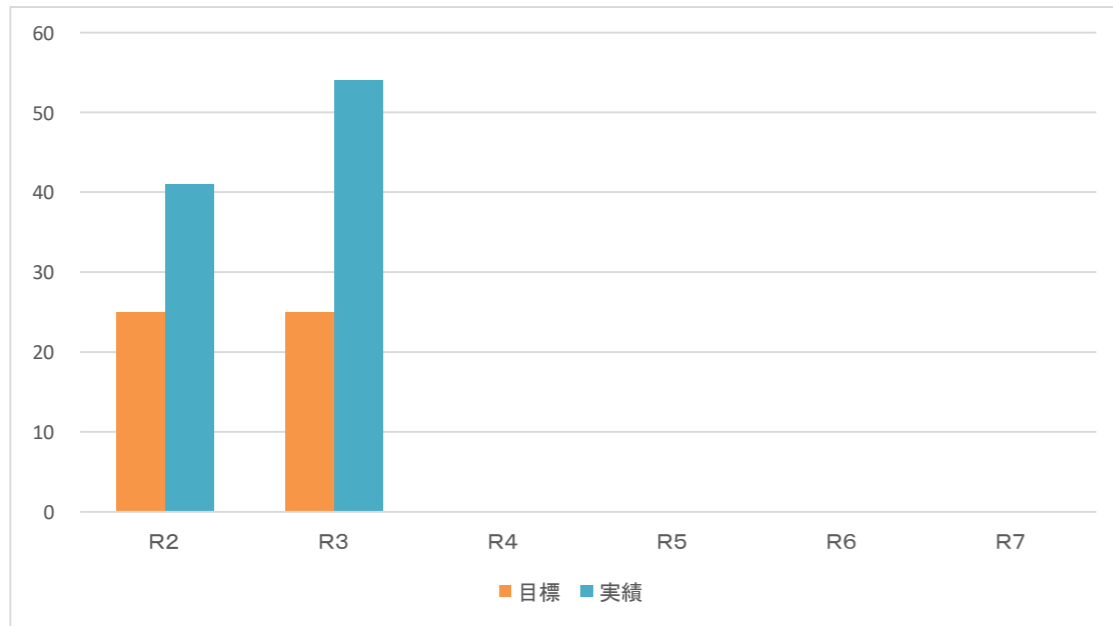
改修後

	内部評価 (Check)		外部評価 (Check)		改善策等(Action)
	評価 (A, B, C, D)	課題	評価 (A, B, C, D)	推進会議委員意見	
R2	B	入居者の移転を伴うため、改善工事の箇所数が限定され計画的に進捗できない。	B	・目標値が分かりづらい。 ・進捗としては悪くない。	移転費の補償を行う等、入居者への負担軽減に努めている。
R3	B	入居者の移転を伴うため、移転希望者がなく計画的に進捗できない。公営住宅全体の必要戸数を把握し、事業の見直し等も含めて検討していかなければならない。	B	なし	移転費の補償を行う等、入居者への負担軽減に努めている。
R4					
R5					
R6					
R7					
評価基準			備考欄		
A: 目的達成に向かって順調に進んでいる。 B: 目的達成に向かってある程度進んでいる。 C: 目的達成に向かってあまり進んでいない。 D: 目的達成に向かって進んでいない。					

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 やすぎ暮らし推進課

事業名	民間賃貸住宅家賃助成事業								
基本目標	基本目標3 住環境を向上し、市民の定住意識を高める								
施策	(1) 住宅の確保								
目的	市民および市外からの転入者に対し家賃を助成することにより、移住・定住しやすい環境を整備し、定住人口の増加を図る。								
手段 (Plan)	UIターン者、新婚者等に対し、民間賃貸住宅の家賃の一部を助成する。								
詳細事業内容 (Do)	成果説明書 (下段:頁)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		18P							
決算額	総事業費 (千円)	23,799	20,619	0	0	0	0		
	財源内訳	国・県							
		地方債							
		その他	23,000	20,500					
	一般財源	799	119						
重要業績指標 KPI	住宅支援の補助件数 (新規) (単年)								
現状値	目標値		R2	R3	R4	R5	R6	R7	単位
		目標	25	25					件
28 (H27)	25 (R7)	実績	41	54					平均達成率
		達成率	164.0%	216.0%					190.0%

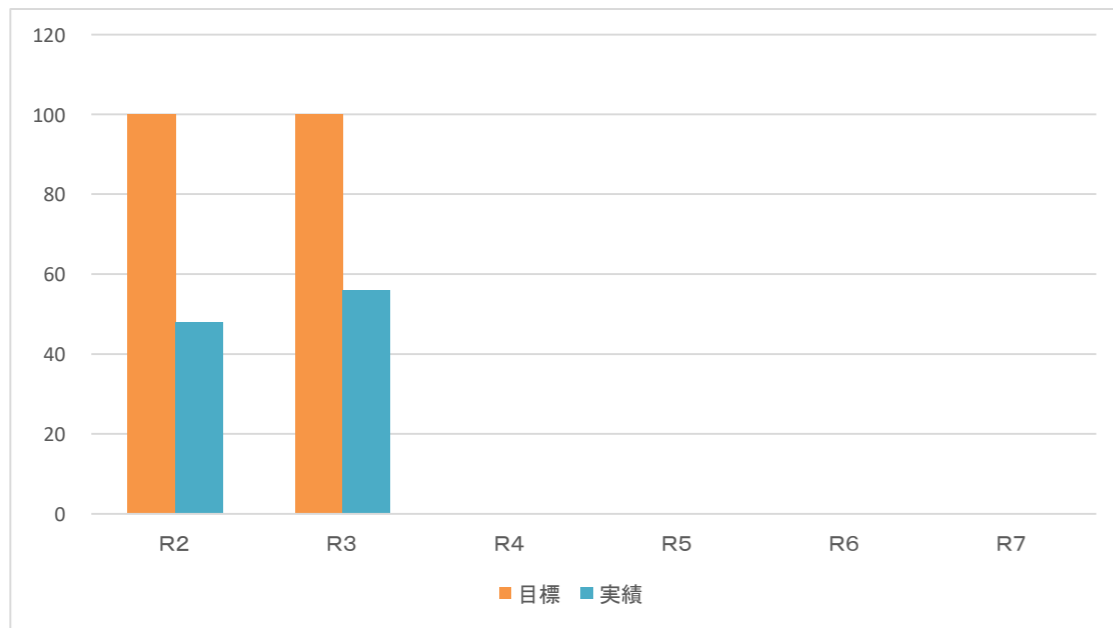


	内部評価 (Check)		外部評価 (Check)		改善策等 (Action)
	評価 (A, B, C, D)	課題	評価 (A, B, C, D)	推進会議委員意見	
R2	B	住宅支援補助制度について、UIターン者への家賃助成から社会減を防ぐための定住者に対する支援策への転換が必要ではないか。(現行の制度については、令和3年度の新規申請分をもって終了する。)	B	・対象を子育て世代に絞るのはどうだろうか。この制度自体が直接定住につながるものではないのでは？ ・この制度があるから定住しているが、終了したら離れてしまうのでは？	令和4年度以降の支援策について、具体的な検討を開始する。
R3	B	本制度により、UIターン者にとっては移住を進めるうえで一定の後押しとなっている一方で、ターゲットが幅広く、事業効果が見えにくいため、よりターゲットを絞った、効果的、効率的な補助制度の検討を行う。	B	この事業内容だと本当に人口の増加につながっているのかわかりにくい。	移住・定住者に対する新たな補助制度を検討する。
R4					
R5					
R6					
R7					
評価基準			備考欄		
A: 目標達成に向かって順調に進んでいる。 B: 目標達成に向かってある程度進んでいる。 C: 目標達成に向かってあまり進んでいない。 D: 目標達成に向かって進んでいない。					

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 やすぎ暮らし推進課

事業名	定住サポートセンター事業									
基本目標	基本目標3 住環境を向上し、市民の定住意識を高める									
施策	(2) 移住者受け入れ体制の充実									
目的	移住・定住希望者に対し、必要な情報の提供及び支援を行い、定住を促進する。									
手段 (Plan)	定住サポートセンターを設置し、移住・定住に関する相談窓口を一本化し、必要となる仕事・住まい・生活情報等の収集、提供を一元的に行う。									
詳細事業内容 (Do)	成果説明書 (下段:頁)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
		18P								
決算額	総事業費 (千円)	5,575	6,111	0	0	0	0			
	財源内訳	国・県	775	593						
		地方債								
		その他	289	63						
		一般財源	4,511	5,455						
重要業績指標 KPI	相談窓口を通じた移住者数 (単年)									
現状値	目標値		R2	R3	R4	R5	R6	R7	単位	
		目標	100	100					人	
92 (H30)	100 (R7)	実績	48	56					平均達成率	
		達成率	48.0%	56.0%					52.0%	

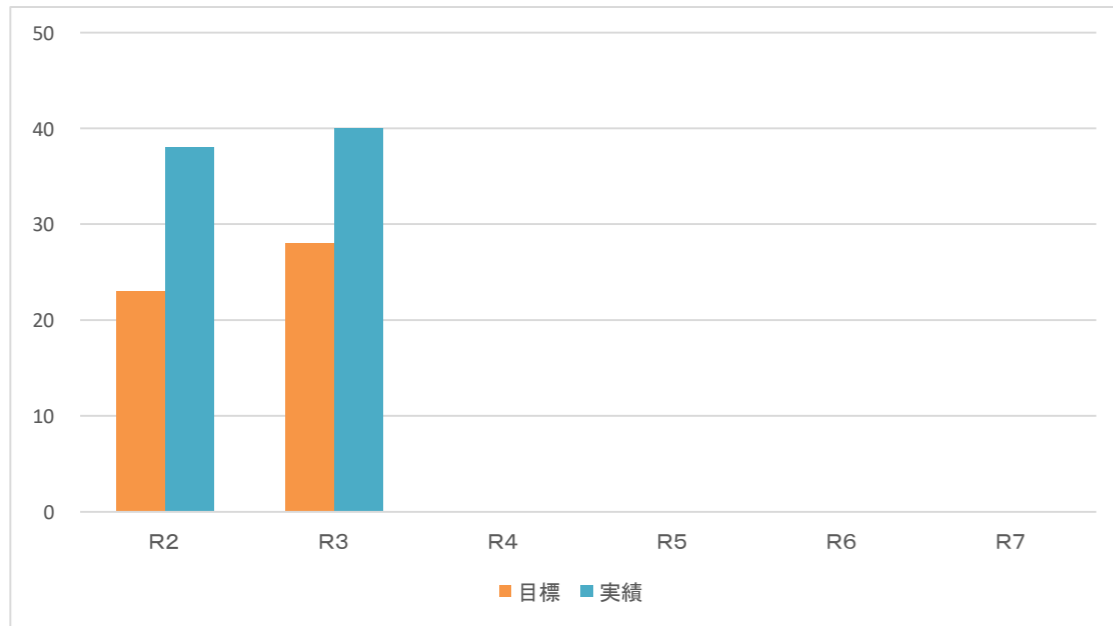


	内部評価 (Check)		外部評価 (Check)		改善策等 (Action)
	評価 (A, B, C, D)	課題	評価 (A, B, C, D)	推進会議委員意見	
R2	B	定住相談員以外のスタッフの相談対応のスキルアップ。移住後のフォロー体制。流入人口増加に着目した施策が多く、流出人口への対策が不十分。	C	・成果の集計で時間を費やしているのでは。 ・定住に関して非常に重要な事業なのに、スタッフ数が減っているのは問題ではないか。 ・達成率が十分ではないと感じるので、改善して欲しい。	「移住」施策の継続を行うとともに「定住」施策を検討する。高校魅力化を通じて「地域の将来を担う人材の育成」を行い、人口定着・還流の流れを形成する。
R3	C	定住相談員のスキルアップとスタッフ数の確保。安来市の魅力を伝えるためのwebサイト、ガイドブック等の発信媒体を強化する。仕事、住宅の情報を充実させる。	C	外部団体にお任せすることは有効な手段だと思う。市内の不動産業者等とも連携をとって移住者の把握などの情報共有をするとよい。コロナ禍で有効なWebイベントの活用を積極的にすべき。移住者の数の割には相談窓口を通じた移住者数が少ないので手立てが必要。	・安来市特定地域づくり事業協同組合へ定住サポートセンター業務を委託し、プロパー職員を育成。 ・定住支援サイトの充実 ・市内企業情報の収集、発信 ・県の出先機関との連携強化 ・空き家バンク制度の充実
R4					
R5					
R6					
R7					
評価基準			備考欄		
<p>A: 目標達成に向かって順調に進んでいる。 B: 目標達成に向かってある程度進んでいる。 C: 目標達成に向かってあまり進んでいない。 D: 目標達成に向かって進んでいない。</p>					

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 やすぎ暮らし推進課

事業名	商業再生支援事業									
基本目標	基本目標3 住環境を向上し、市民の定住意識を高める									
施策	(3) まちなか等の利便性の向上									
目的	経済情勢の悪化や事業者の高齢化等の現状を考慮し、商業機能の維持・向上などに取り組む事業者を支援することにより、地域商業等の振興に寄与する。									
手段(Plan)	空き店舗等での出店に際し改修費、備品購入費等の初期費用や家賃の一部を補助。中山間地域での店舗整備及び移動販売車購入にかかる経費の一部を補助。									
詳細事業内容(Do)	成果説明書(下段:頁)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
		149P								
決算額	総事業費(千円)	10,326	1,936	0	0	0	0			
	財源内訳	国・県	5,163	968						
		地方債								
		その他	5,000							
	一般財源	163	968							
重要業績指標KPI	事業を利用した空き店舗等への出店数(累計)									
現状値	目標値		R2	R3	R4	R5	R6	R7	単位	
		目標	23	28					件	
19	48	実績	38	40					平均達成率	
(H27~30)	(R7)	達成率	165.2%	142.9%					154.0%	

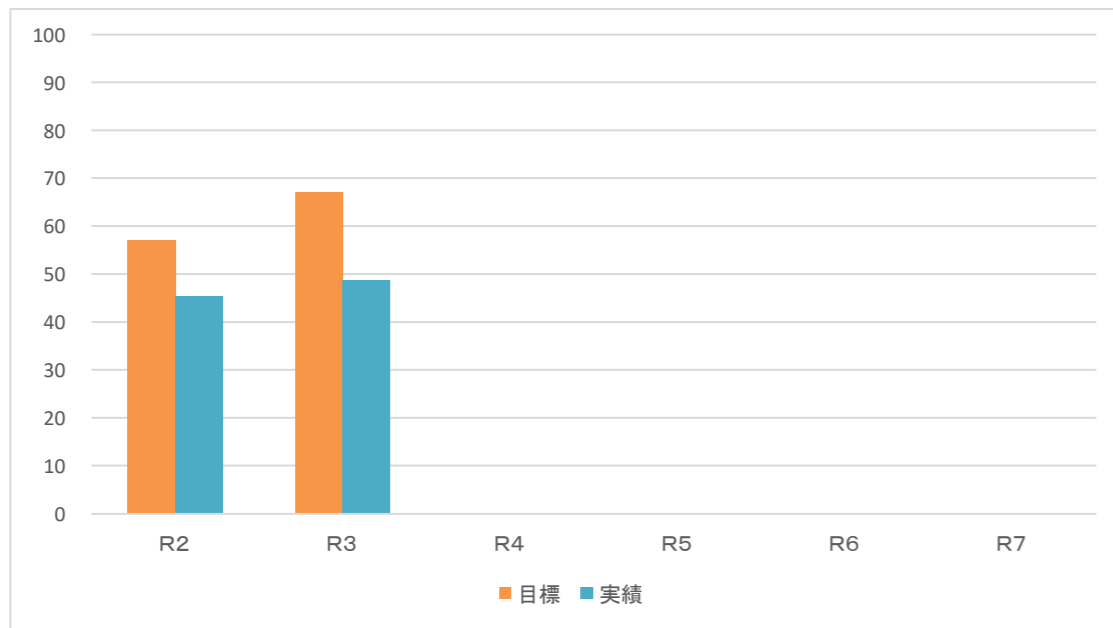


	内部評価 (Check)		外部評価 (Check)		改善策等(Action)
	評価 (A, B, C, D)	課題	評価 (A, B, C, D)	推進会議委員意見	
R2	B	コロナ禍にもかかわらず出店数は順調だが、申請者のうち市外在住者の安来市への移住の促進には繋がっていない。	A	・目標値を含めた表が見づらい。単年ごとの目標値も記載してほしい。 ・実績は満足だが、効果はいまひとつ。定住に直結するような工夫がほしい。 ・新しい店舗ができて発展しているのであれば評価する。	市外を含め、複数店舗を営んでいる者もいるが、唯一の店舗が安来にある申請者については、移住に対する意識を詳しくヒアリングし、市として移住を重要視していることを理解してもらおう。
R3	B	出店数は前年を下回った。令和4年度施行に向けて補助金交付要綱の改正を行い、小売店等開業支援事業(一般枠)の対象区域の拡大を図ったが相談者ごとに創業への意識段階が異なるため、それぞれに適した支援が必須である。	B	なし	意識段階の異なる創業希望者への一貫した支援体制の確立を目指し、安来市・安来商工会議所・安来商工会、やすぎ創業支援センターとの情報共有と連携の強化を図る。
R4					
R5					
R6					
R7					
評価基準			備考欄		
A: 目標達成に向かって順調に進んでいる。 B: 目標達成に向かってある程度進んでいる。 C: 目標達成に向かってあまり進んでいない。 D: 目標達成に向かって進んでいない。					

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 土木建設課

事業名	道路改良事業									
基本目標	基本目標3 住環境を向上し、市民の定住意識を高める									
施策	(4) 道路ネットワークの整備									
目的	利便性の高い生活基盤（道路ネットワーク）の整備を進める。									
手段（Plan）	国からの交付金等を利用し、継続事業について進捗を図る。									
詳細事業内容（Do）	成果説明書（下段：頁）	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	177.181.184.186.1 88.189.191.193P									
決算額	総事業費（千円）	278,576	357,271	0	0	0	0			
	財源内訳	国・県	113,240	163,722						
		地方債	158,200	169,200						
		その他	0	0						
		一般財源	7,136	24,349						
重要業績指標 KPI	道路整備における継続事業の進捗率									
現状値	目標値	R2	R3	R4	R5	R6	R7	単位		
	目標	57	67						%	
32 (H30)	92 (R7)	実績	45.4	48.7					平均達成率	
	達成率	79.6%	72.7%						76.2%	

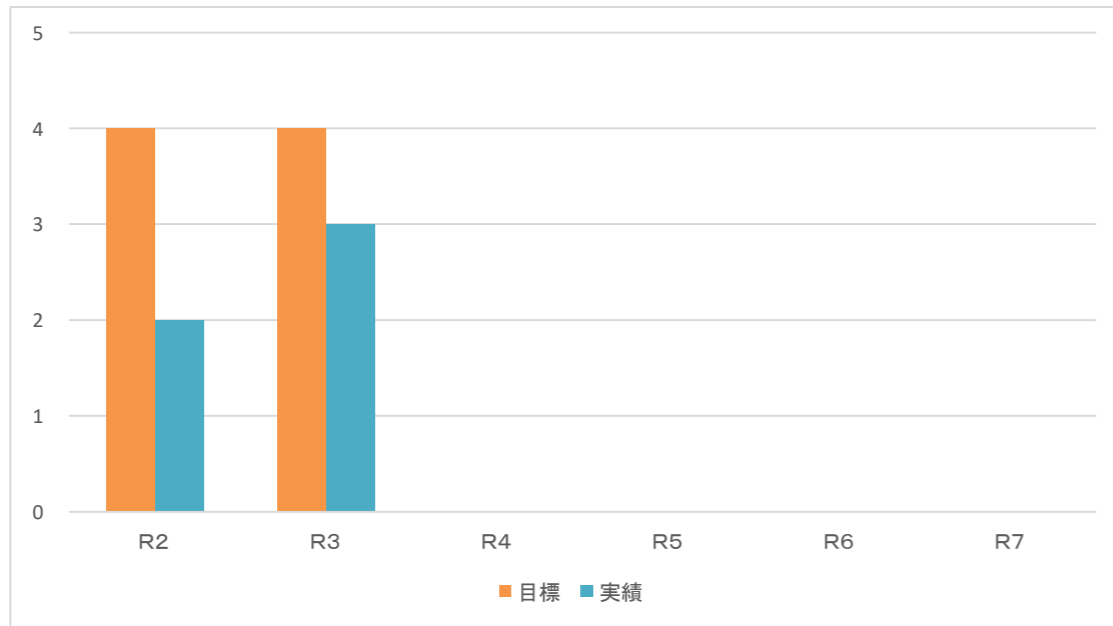


	内部評価 (Check)		外部評価 (Check)		改善策等 (Action)
	評価 (A, B, C, D)	課題	評価 (A, B, C, D)	推進会議委員意見	
R2	B	用地交渉が難航している路線があり、事業の進捗に大きく影響している。	B	・目標値に事業費を使っていると成果が判断しづらい。道路の距離単位にするべきでは。 ・一中前の道路を整備しているが、アルテピアまでで終わるのはどうなのだろうか。	路線計画の変更も見据えて事業を進めていく。また、今後の市道整備計画について路線の優先順位をつけていく。
R3	B	コロナ禍により、直接面会による用地交渉が困難となり、事業進捗に大きく影響した。	B	なし	今後は、WEB等を活用して交渉ができないか検討していく。
R4					
R5					
R6					
R7					
評価基準			備考欄		
A：目標達成に向かって順調に進んでいる。 B：目標達成に向かってある程度進んでいる。 C：目標達成に向かってあまり進んでいない。 D：目標達成に向かって進んでいない。					

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 地域振興課

事業名	生活交通ネットワーク再編事業									
基本目標	基本目標3 住環境を向上し、市民の定住意識を高める									
施策	(5) 公共交通の充実									
目的	イエローバスに加え、住民と行政が協働で地域の新たな移動手段の検討・運行を行うことにより、市民の移動ニーズへの対応や公共交通空白地域の解消を図ること									
手段 (Plan)	自家用有償旅客運送事業を行う団体を支援することで、地域内交通の実施地区を拡大する									
詳細事業内容 (Do)	成果説明書 (下段:頁)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
		172P								
決算額	総事業費 (千円)	879	500	0	0	0	0			
	財源内訳	国・県	320							
		地方債								
		その他								
	一般財源	559	500							
重要業績指標 KPI	地域内交通の実施地区 (累計)									
現状値	目標値	R2	R3	R4	R5	R6	R7	単位		
	目標	4	4					地区		
2 (R1)	4 (R7)	実績	2	3				平均達成率		
		達成率	50.0%	75.0%				62.5%		

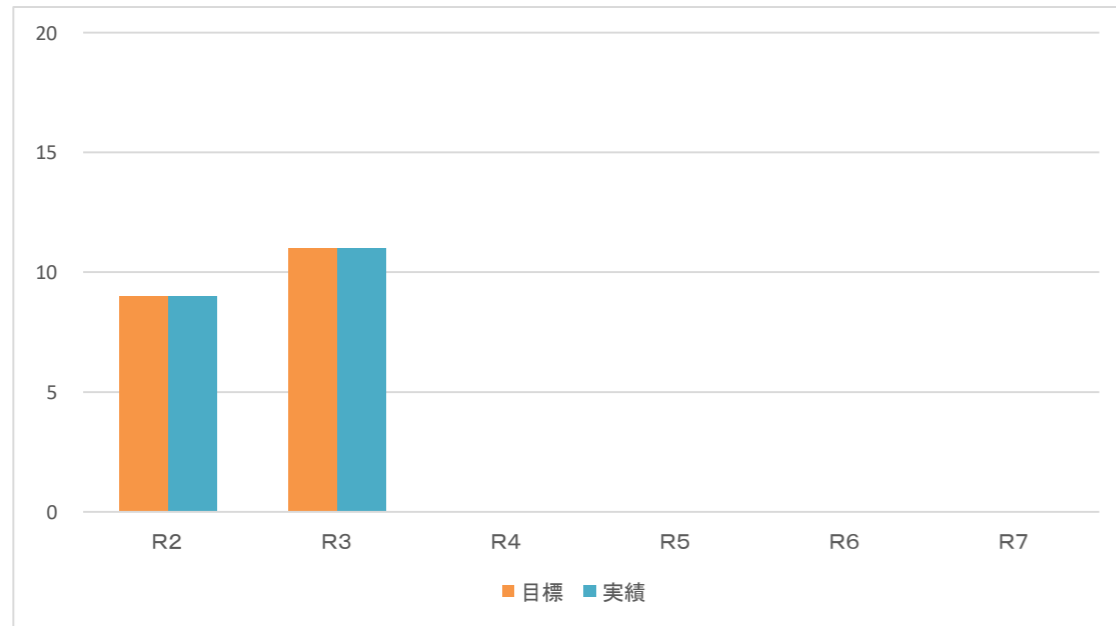


	内部評価 (Check)		外部評価 (Check)		改善策等 (Action)
	評価 (A, B, C, D)	課題	評価 (A, B, C, D)	推進会議委員意見	
R2	A	地域の交通手段について問題意識を持っている地域はあるが、問題解決の当事者として動く地域組織が少ない。また道路運送法は4条事業者を優先するため、要望があっても支援が難しい地区がある。	A	・過疎地の高齢化が進んでいるが、今後は大丈夫なのか。 ・事業として、手が挙げれば受け入れられるのか。	実施地区の支援を行い、新たな事業に発展させ、利便性の向上を図る。その成功事例をPRすることにより、未導入地区の意識造成を図る。
R3	B	実施地区は増えたが、既存先以外で当事者として動く地域組織が見当たらない。当初に導入した地区はドライバーの高齢化問題が出てきており、ボランティアの世代交代をスムーズにするための施策が必要となっている	B	アルテピアでイベントがあった時のバスの便が少ないので、不定期にでも便数を増やす必要があると思う。体制づくりに課題があるので、小さな拠点づくりと合わせて進めると良いのでは。	単なる輸送にとどまらない複合事業化を推進し、他地区へのPRを図る。
R4					
R5					
R6					
R7					
評価基準			備考欄		
A: 目標達成に向かって順調に進んでいる。 B: 目標達成に向かってある程度進んでいる。 C: 目標達成に向かってあまり進んでいない。 D: 目標達成に向かって進んでいない。					

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 いきいき健康課

事業名	医師・薬剤師・看護師等確保対策事業									
基本目標	基本目標3 住環境を向上し、市民の定住意識を高める									
施策	(6) 医療・福祉の充実									
目的	将来市内医療機関等に従事し、地域医療に貢献していただくことを目的とする。									
手段 (Plan)	将来市内医療機関等への従事を希望する医学生、薬学生、看護学生へ奨学金を貸与する。									
詳細事業内容 (Do)	成果説明書 (下段:頁)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
		92P								
決算額	総事業費 (千円)	2,439	1,680	0	0	0	0			
	財源内訳	国・県								
		地方債								
		その他								
	一般財源	2,439	1,680							
重要業績指標 KPI	医学生、薬学生、看護学生奨学制度を活用して市内医療機関等に勤務する人の数 (累計)									
現状値	目標値	R2	R3	R4	R5	R6	R7	単位		
	目標	9	11					人		
7 (H27~R1)	19 (R7)	実績	9	11				平均達成率		
	達成率	100.0%	100.0%					100.0%		



	内部評価 (Check)		外部評価 (Check)		改善策等 (Action)
	評価 (A, B, C, D)	課題	評価 (A, B, C, D)	推進会議委員意見	
R2	B	○貸与希望者の減少 特に医学生の貸与希望者がなく、また安来市内での就職につながっていないため、学童期からの取り組みが必要である。	A	・事業自体は看護師に有効だと感じる。医学生はあまり効果がないのでは。 ・県が実施している研修を行うべきでは。 ・実績が挙げられているため、制度としても良い。	・市内の小中学校を対象として実施する「地域医療教育推進事業」を通じ地域医療についての啓発。 ・医師確保に向けた関係機関との連携及び情報の共有
R3	A	・令和3年度貸与修了者については市内医療機関へ就職につながっているが、貸与希望者が減少した。	A	高校生の進学に係る情報としてもっと周知をした方が良い。	
R4					
R5					
R6					
R7					
評価基準			備考欄		
A: 目標達成に向かって順調に進んでいる。 B: 目標達成に向かってある程度進んでいる。 C: 目標達成に向かってあまり進んでいない。 D: 目標達成に向かって進んでいない。					

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 地域振興課

事業名	つなぐ！ひろがる！地域づくり支援事業							
基本目標	基本目標4 多種多様で魅力的な地域を形成する							
施策	(1) 地域コミュニティの担い手の確保・育成							
目的	“人づくり”の拠点である交流センターが、地域住民とともに地域の課題を掘り下げ、その解決に向けた学習・実践活動を行い、特色ある地域づくりにつなげていく。							
手段(Plan)	各地区交流センター単位で地域活性化推進、地域ビジョンの作成、地域リーダーの研修などの派遣実施をする。							
詳細事業内容(Do)	成果説明書(下段:頁)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		250P						
決算額	総事業費(千円)	1,000	790	0	0	0	0	
	財源内訳	国・県	500	395				
		地方債	0	0				
		その他	0	0				
		一般財源	500	395				

令和3年度実績

①つなぐ！ひろがる！地域づくり支援事業として、「やすぎチャレンジ塾」を開催
22名(うち大人7名、高校生15名)の参加があり、年間で6回開催。
大人は2チームで、それぞれチャレンジ計画を作成して発表し、令和4年度中の実践に向けて準備を進めている。高校生については新型コロナウイルス感染症による影響や、3年生も多かったことで後半の参加率が低く、計画を作成するところまで至らなかった。

【講座内容】

- ① 地域づくりの楽しさって？(6/12)
- ② 問題解決フレームワーク①(7/10)
- ③ 問題解決フレームワーク② ※開催日：高校生(9/18)、大人(10/2)
- ④ チャレンジ計画をつくってみよう(10/30)
- ⑤ 事業をスタートさせるためには？(12/18)
- ⑥ 参加者同士でチャレンジ計画発表会(3/5)



②布部交流センターで地域ビジョンを作成 9地区/20地区

住民を対象としたワークショップ(参加者50名)を開催し、地域の良いところ、困りごと、理想について多くの意見を集めることが出来た。令和4年度も引き続き、地域ビジョンの策定に向けて取り組んでいく。

③ともに考えるこれからの地域づくり「オンライン」研修会を実施

つなぐ！ひろがる！地域づくり支援事業の実践例をふまえ、「多種多様で魅力的な地域」の形成と「地域を次世代に繋げていくこと」を目指したこれからの地域づくりについて考えることができた。

	内部評価(Check)		外部評価(Check)		改善策等(Action)
	評価(A, B, C, D)	課題	評価(A, B, C, D)	推進会議委員意見	
R2	B	地域住民が将来像を自分たちで作り、それに向けて動いていく機運の醸成に向けての仕掛けが難しい。交流センター職員を対象とした研修等を実施し、地域性を考慮しながらスキルアップ等に取り組んでいる。	B	地域ごとの熱量に差があり、地域によってAからDまで評価が分かれる現状を解消することが課題である。地域に危機感を持って取り組んでもらう必要がある。	事業への参加が少ないことから、内容を変更し、地域づくりと人材育成を両輪で回せるよう工夫する。
R3	C	R2年度と同様、地域間の熱意の温度差が大きく参加者の募集に苦慮した。地域住民が主体的に地域づくりに取り組めるよう、交流センター職員のコーディネート力などのスキルを向上させていく必要がある。	C	なし	交流センター職員のスキルアップを目的とした研修等を継続し実施する。併せて、地域住民が主体的に参加する取り組み事例を交流センター間で共有することにより、地域間の意識差を解消していく。
R4					
R5					
R6					
R7					

評価基準

- A: 目的達成に向かって順調に進んでいる。
- B: 目的達成に向かってある程度進んでいる。
- C: 目的達成に向かってあまり進んでいない。
- D: 目的達成に向かって進んでいない。

備考欄

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 地域振興課

事業名	小さな拠点づくり事業							
基本目標	基本目標4 多種多様で魅力的な地域を形成する							
施策	(2) 地域の拠点づくり							
目的	地域住民を主体とした地域運営のしくみづくり							
手段 (Plan)	①地域ビジョンの作成支援を通じた地域住民の話し合いの場づくり、②地域づくり支援補助金による実践活動への支援、③県モデル事業の推進							
詳細事業内容 (Do)	成果説明書 (下段:頁)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	21P							
決算額	総事業費 (千円)	600	9,621	0	0	0	0	
	財源内訳	国・県	400	3,200				
		地方債	0	500				
		その他	0	0				
		一般財源	200	5,921				

令和3年度実績

①地域ビジョンの作成支援を通じた地域住民の話し合いの場づくり
 ・地域ビジョンを作成している交流センターエリア 9地区/20地区
 ・R3年度は、前年度から継続して支部地区の地域ビジョン作成に向けての話し合いに対して支援をおこなった。

②地域づくり支援補助金による実践活動への支援
 ・地域づくり支援補助金 (小さな拠点づくり推進事業) 採択2件
 補助率: 10/10、補助上限: 250千円 (複数エリアの場合500千円)
 補助対象: 交流センターエリアを活動範囲とする生活支援協議体
 取組内容: 防災福祉マップ作製、多世代が集える居場所作り等



防災福祉マップ作製

③県モデル事業の推進
 ・島根県の「小さな拠点づくり」モデル地区推進事業を令和2年度から令和6年度までの5年間、比田地区において推進する。
 ・計画の概要

地域交通支援	デマンド交通の比田地域全域への展開、多機能拠点施設整備 バス停留所整備
高齢者生活支援	高齢者への食事の提供、移動販売、冬期一時居住施設整備
自主防災機能強化支援	助け合いマップの作成、防災訓練、人材育成

・令和3年度は、デマンド交通のエリア拡大、多機能拠点施設の設計、食事の提供、防災研修会等を行った。



食事の提供



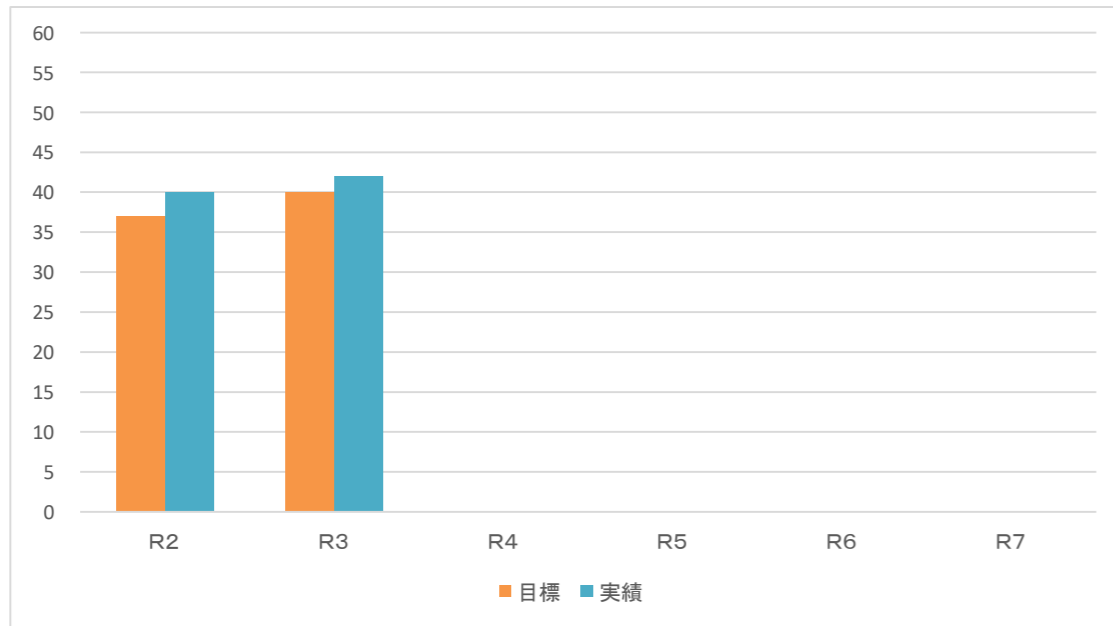
防災研修会

	内部評価 (Check)		外部評価 (Check)		改善策等 (Action)
	評価 (A, B, C, D)	課題	評価 (A, B, C, D)	推進会議委員意見	
R2	B	・行政の支援体制の強化。支援スキルアップ、人材配置。 ・地域住民の地域づくりを行う機運醸成、人材育成。	B	非常に積極的に取り組んでいる地区への支援は評価できるが、他の地域に波及させていくのが課題である。	・チャレンジ塾の実施による、地域リーダーや支援者側の人材育成 ・地域づくり支援補助金の活用推進
R3	B	・行政の支援体制の強化。支援スキルアップ、人材配置。 ・地域住民の地域づくりを行う機運醸成、人材育成。	B	小さな拠点事業とデマンド交通を同じ土台に載せて推進していけるような地域ビジョンの作成を成功事例も示しながら積極的に地域にPRや情報提供すべき。	・地域づくり支援補助金の活用推進
R4					
R5					
R6					
R7					
評価基準			備考欄		
A: 目的達成に向かって順調に進んでいる。 B: 目的達成に向かってある程度進んでいる。 C: 目的達成に向かってあまり進んでいない。 D: 目的達成に向かって進んでいない。					

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課 防災課

事業名	自主防災組織支援事業									
基本目標	基本目標4 多種多様で魅力的な地域を形成する									
施策	(3) 防災体制の整備									
目的	自主防災組織の結成を推進するとともに、組織の活動支援や防災リーダーを育成することで、地域における防災力の強化を図る。									
手段 (Plan)	市が認定する自主防災組織を対象に、資機材の購入や訓練等の実施に係る費用の一部を補助するとともに、防災士資格取得経費については対象経費（旅費を除く）の全てを補助する。									
詳細事業内容 (Do)	成果説明書 (下段:頁)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	30P									
決算額	総事業費 (千円)	929	664	0	0	0	0			
	財源内訳	国・県								
		地方債								
		その他								
	一般財源	929	664							
重要業績指標 KPI	防災士資格取得者数 (累計)									
現状値	目標値		R2	R3	R4	R5	R6	R7	単位	
		目標	37	40					人	
34	52	実績	40	42				平均達成率		
(R1.12)	(R7)	達成率	108.1%	105.0%				106.6%		



	内部評価 (Check)		外部評価 (Check)		改善策等 (Action)
	評価 (A, B, C, D)	課題	評価 (A, B, C, D)	推進会議委員意見	
R2	A	防災士の資格取得者がその後の地域防災にもたらす効果・活動内容を把握できない。 また、一部地域では自主防災組織の結成が進まない。	B	防災士を増やすだけでなく、防災士が実際に災害時に活動できることが重要である。自主防災組織の設立が進まない地区について、市がもっと積極的に関与した方が良い。	市が開催する出前講座や防災訓練の際、防災士へ協力を求め、防災力向上に向けて連携を図る。 組織の結成については、引き続き出前講座など様々な機会を通じて推進する。
R3	B	防災士の資格取得者がその後の地域防災にもたらす効果・活動内容を把握できない。 また、一部地域では自主防災組織の結成が進まない。	B	なし	・出前講座や防災学習の際、防災士へ協力を求め、防災力向上に向けて連携を図る。(日本防災士会島根県支部と連携して進める) ・組織の結成については、引き続き出前講座など様々な機会を通じて推進する。
R4					
R5					
R6					
R7					
評価基準			備考欄		
A: 目標達成に向かって順調に進んでいる。 B: 目標達成に向かってある程度進んでいる。 C: 目標達成に向かってあまり進んでいない。 D: 目標達成に向かって進んでいない。					